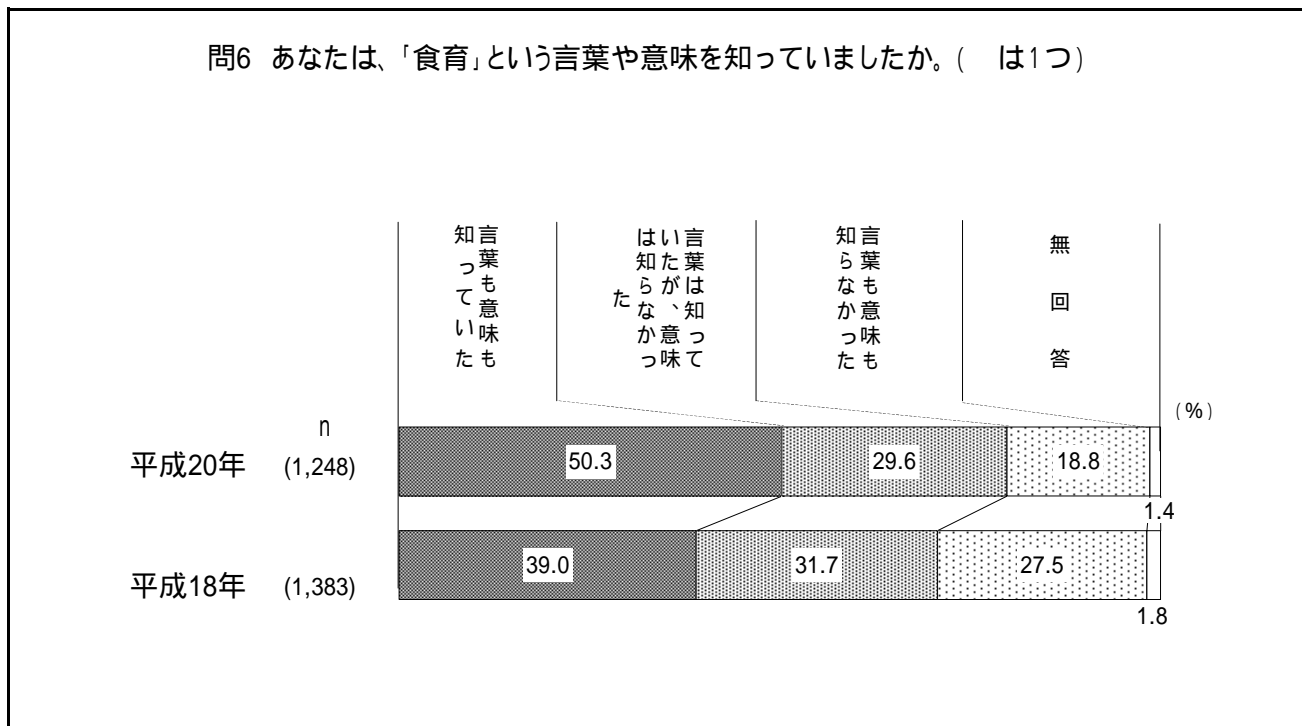


2 食育

(1) 「食育」の意味

「言葉も意味も知っていた」が5割強



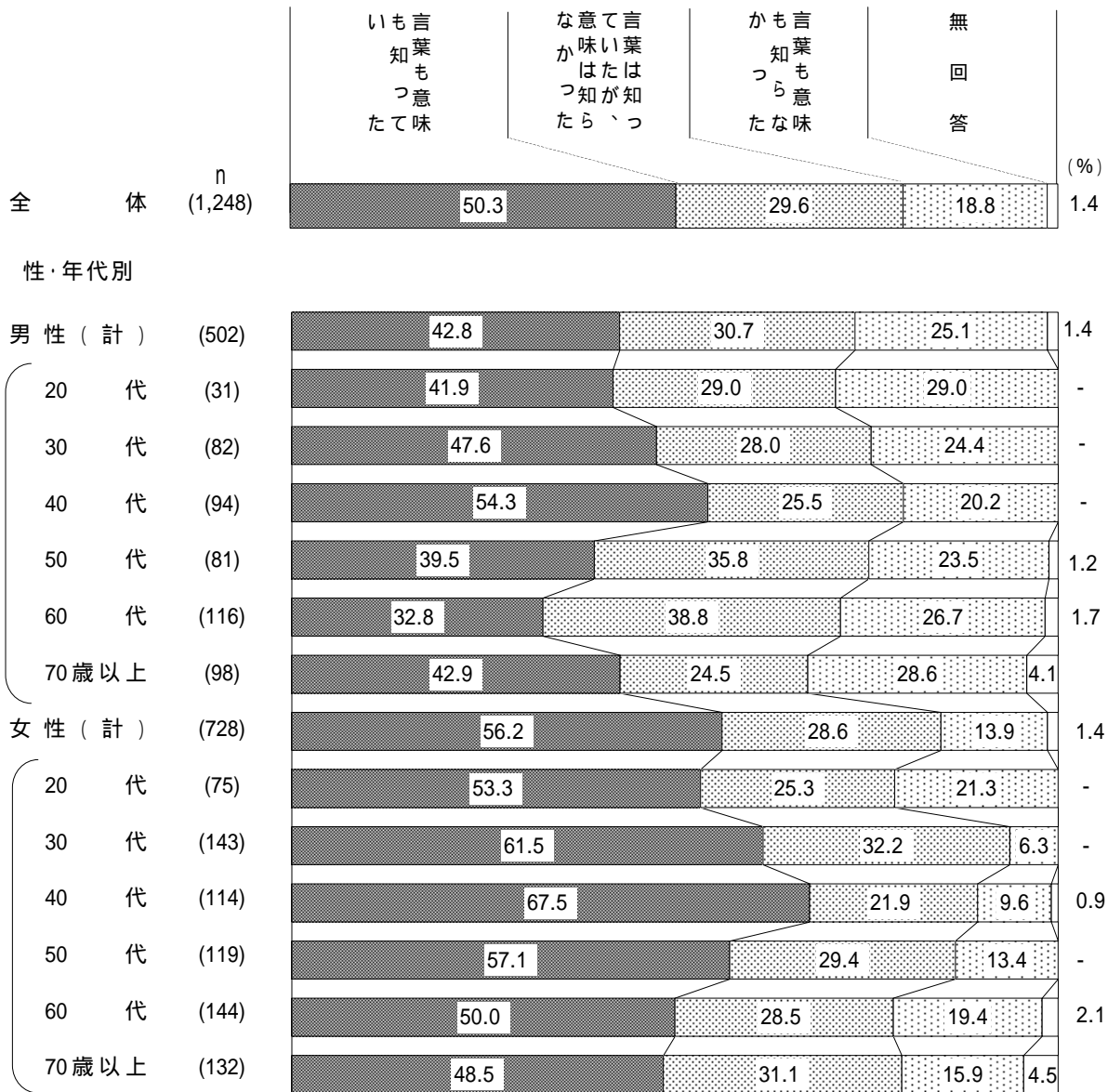
食育の言葉や意味について聞いてみると、「言葉も意味も知っていた」が50.3%と約5割であった。次いで「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が29.6%、「言葉も意味も知らなかった」が18.8%である。平成18年と比べると、「言葉も意味も知っていた」と回答した人が11.3ポイント増している。

性・年代別にみると、図2 - 1 - 1のとおりである。

「言葉も意味も知っていた」と答えた人は、男性よりも女性の方が高く、女性は70歳以上を除いた年代で50%以上を示している。特に、女性30代(61.5%)、40代(67.5%)では60%以上の高い値を示している。男性で50%を超えているのは40代のみである。

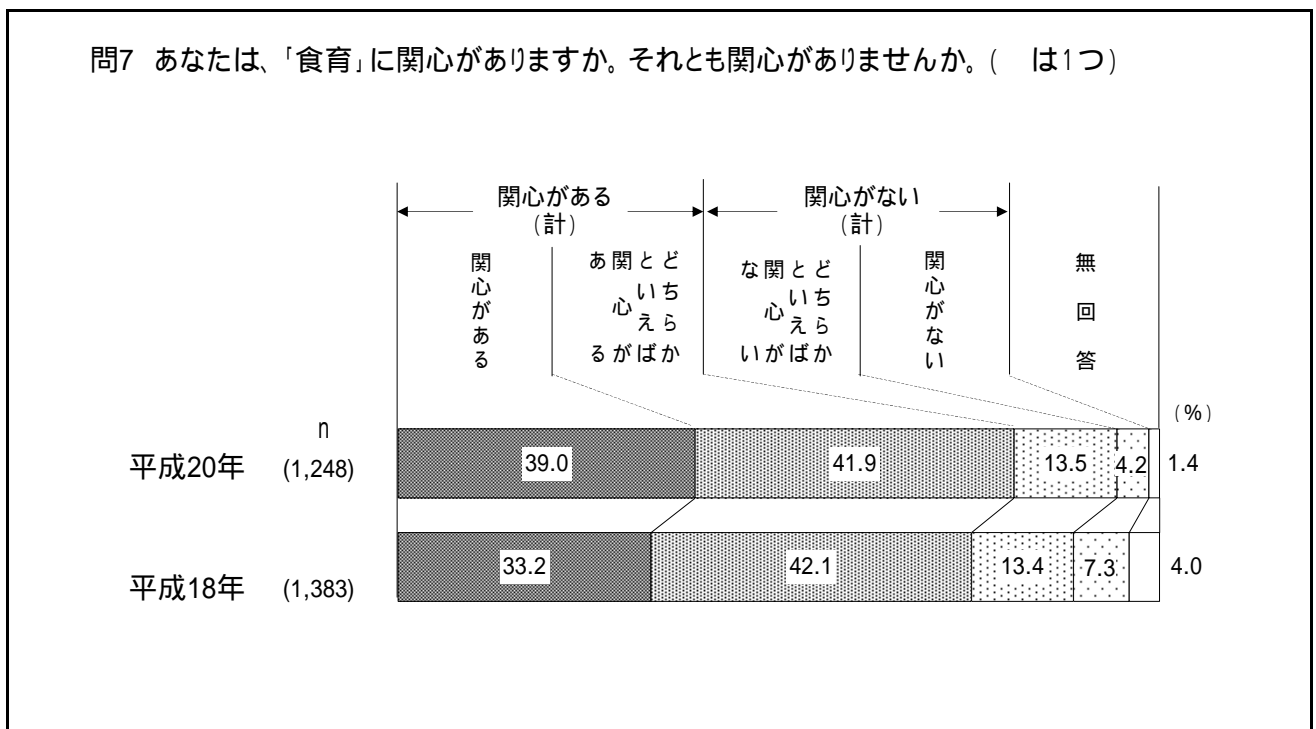
一方、「言葉も意味も知らなかった」は男性20代が最も高く29.0%を示している。

図2 - 1 - 1 「食育」の意味(性・年代別)



(2) 「食育」への関心

5人中4人が「関心がある」



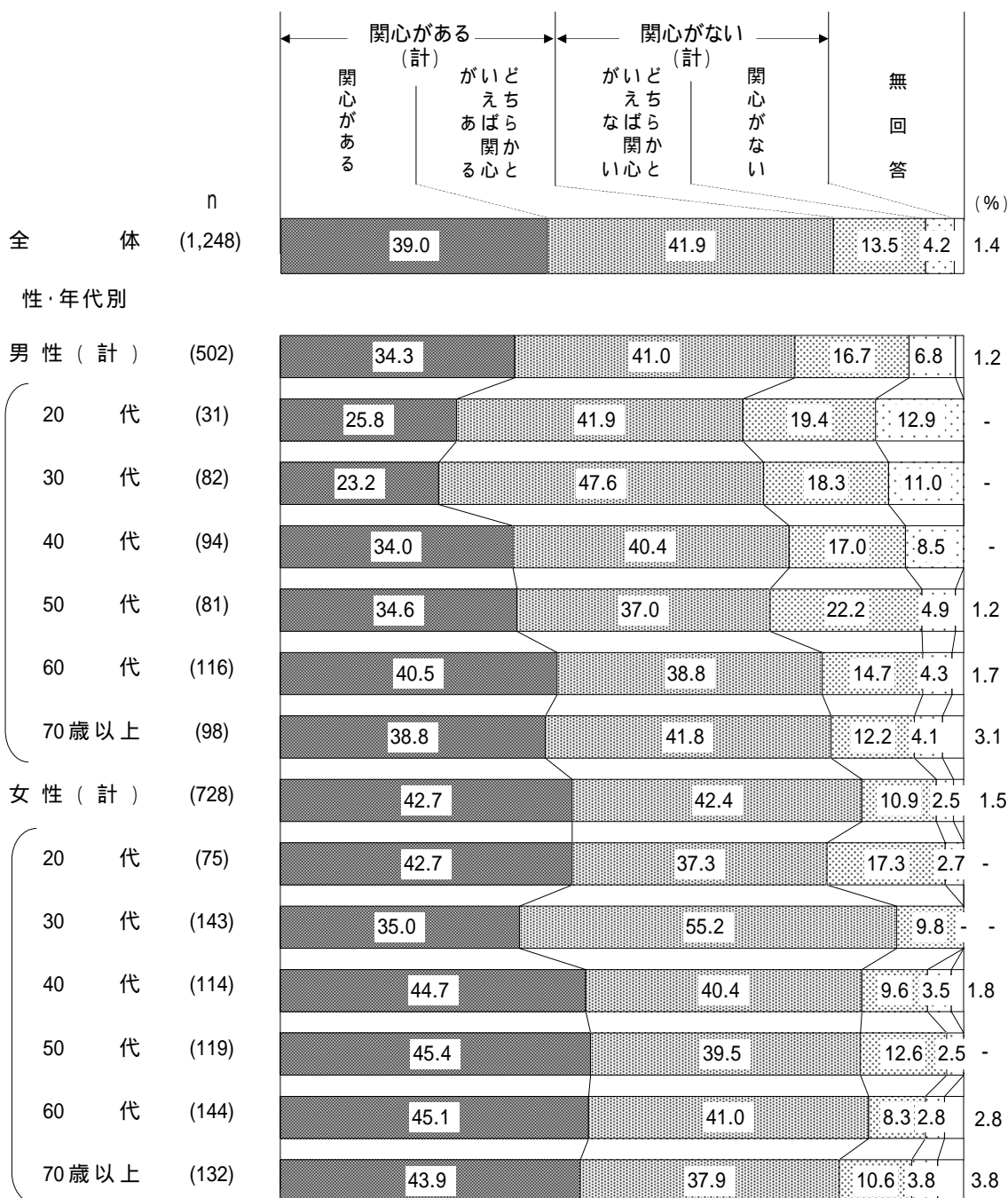
食育への関心について聞いてみると、「関心がある」(39.0%)と「どちらかといえば関心がある」(41.9%)を合わせた《関心がある》が80.9%となっている。一方、「関心がない」(4.2%)と「どちらかといえば関心がない」(13.5%)を合わせた《関心がない》は17.7%となっている。

平成18年と比べると、「関心がある」と回答した人が5.8ポイント増している。

性・年代別にみると、図2 - 2 - 1のとおりである。

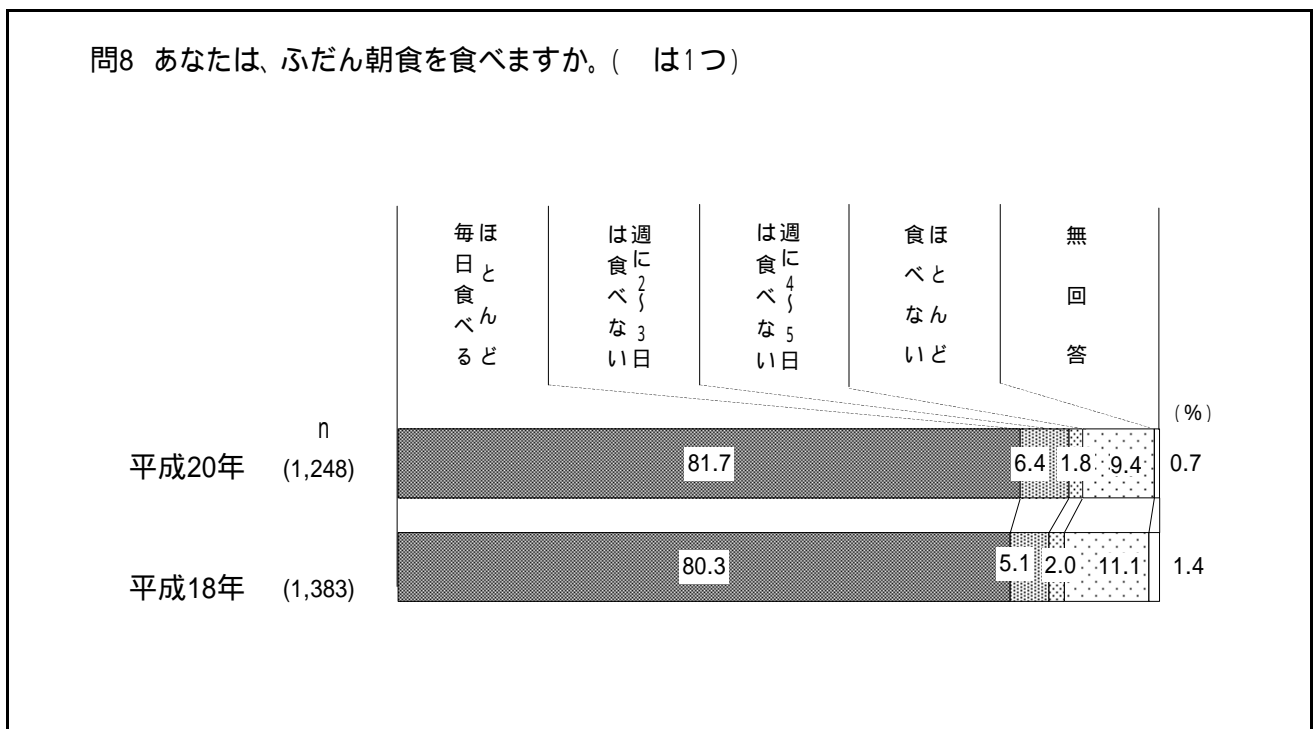
《関心がある》は女性の方が比較的高く、すべての年代において80%以上を示し、中でも女性30代は90.2%と最も高い。一方、男性の全体平均では、《関心がある》は75.3%となり、中でも男性60代と70歳以上のみがそれぞれ79.3%と80.6%と平均を上回っている。

図2 - 2 - 1 「食育」への関心（性・年代別）



(3) 朝食を食べる割合

「ほとんど毎日食べる」が8割強



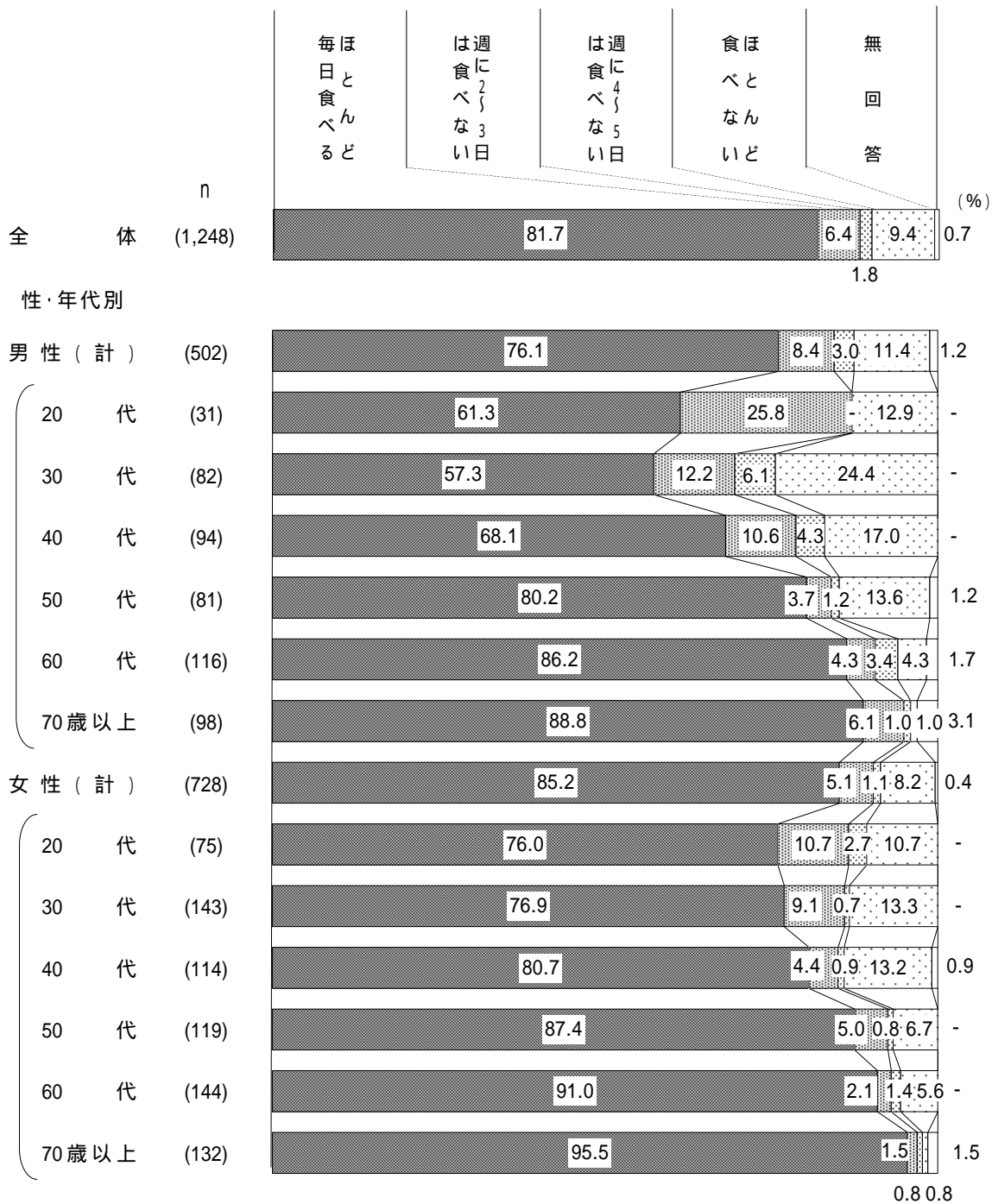
ふだん朝食を食べるかについて聞いてみると、「ほとんど毎日食べる」が81.7%で約8割を占めている。一方で、「ほとんど食べない」と回答した人は9.4%で1割弱にのぼる。その他、「週に2～3日は食べない」は6.4%、「週に4～5日は食べない」は1.8%となっている。

平成18年と比べると、全ての項目においてほとんど変化がない。

性・年代別に見ると、図2 - 3 - 1のとおりである。

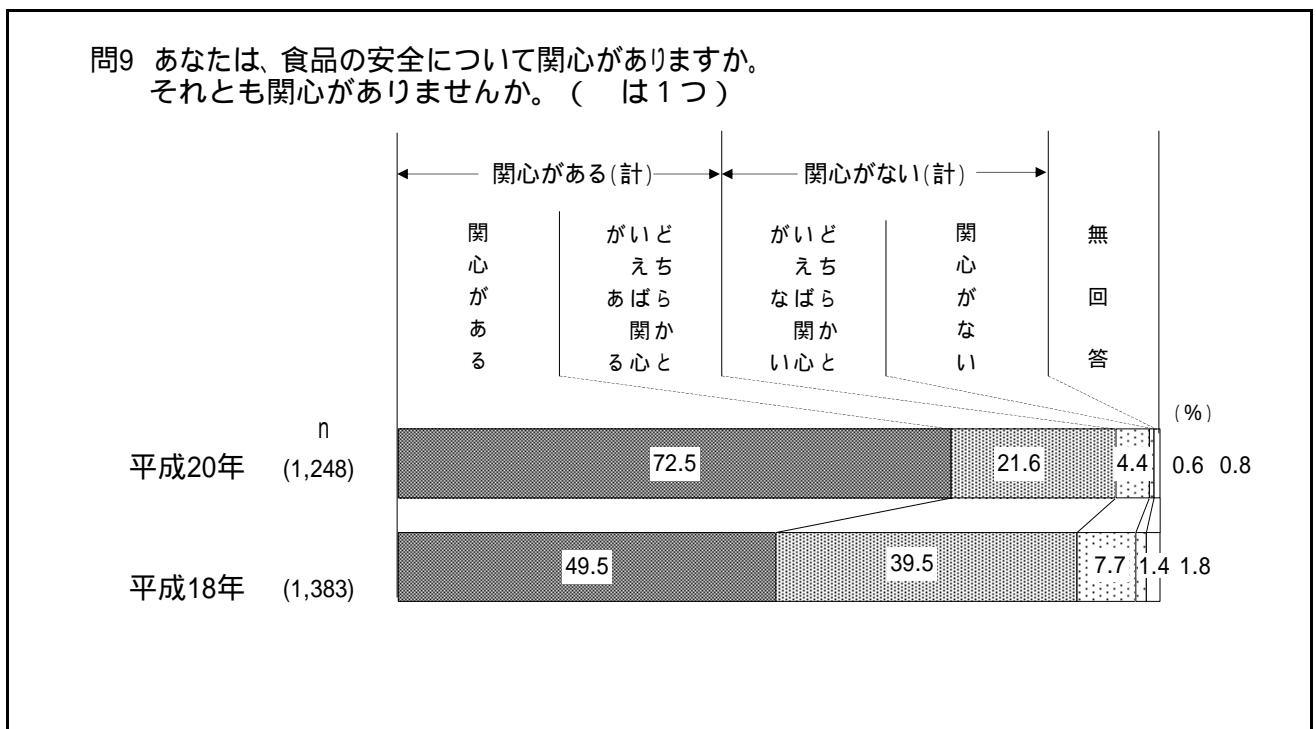
「ほとんど毎日食べる」と回答した人は男性30代(57.3%)をのぞくすべての年代が60%以上であり、男女共に年代が上がるにつれ上昇する傾向にあり、男性50代以上は8割を超えている。また、女性60代(91.0%)と女性70歳以上(95.5%)においては9割以上である。一方、「ほとんど食べない」と回答した人は男性では50代以下、女性では40代以下で10%を超えており、男性30代(24.4%)が最も高くなっている。

図2 - 3 - 1 朝食を食べる割合(性・年代別)



(4) 食品の安全について

「関心がある」が9割以上



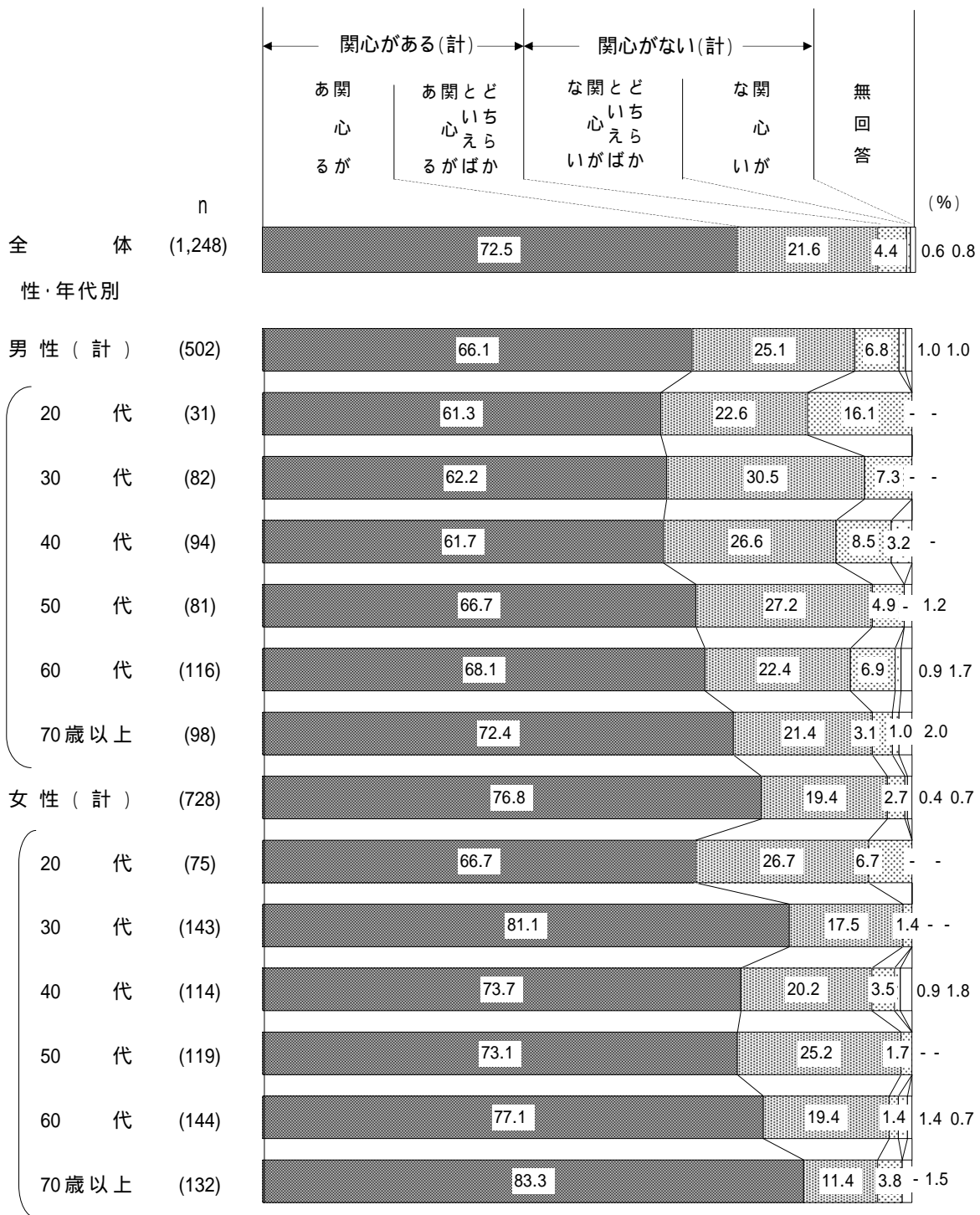
食品の安全に関心があるかについて聞いてみると、「関心がある」(72.5%)と「どちらかといえば関心がある」(21.6%)を合わせた「関心がある」人は94.2%である。一方、「関心がない」(0.6%)と「どちらかといえば関心がない」(4.4%)を合わせた「関心がない」人は5.0%となっている。

平成18年と比べると、「関心がある」と回答した人が23ポイント増している。

性・年代別にみると、図2 - 4 - 1のとおりである。

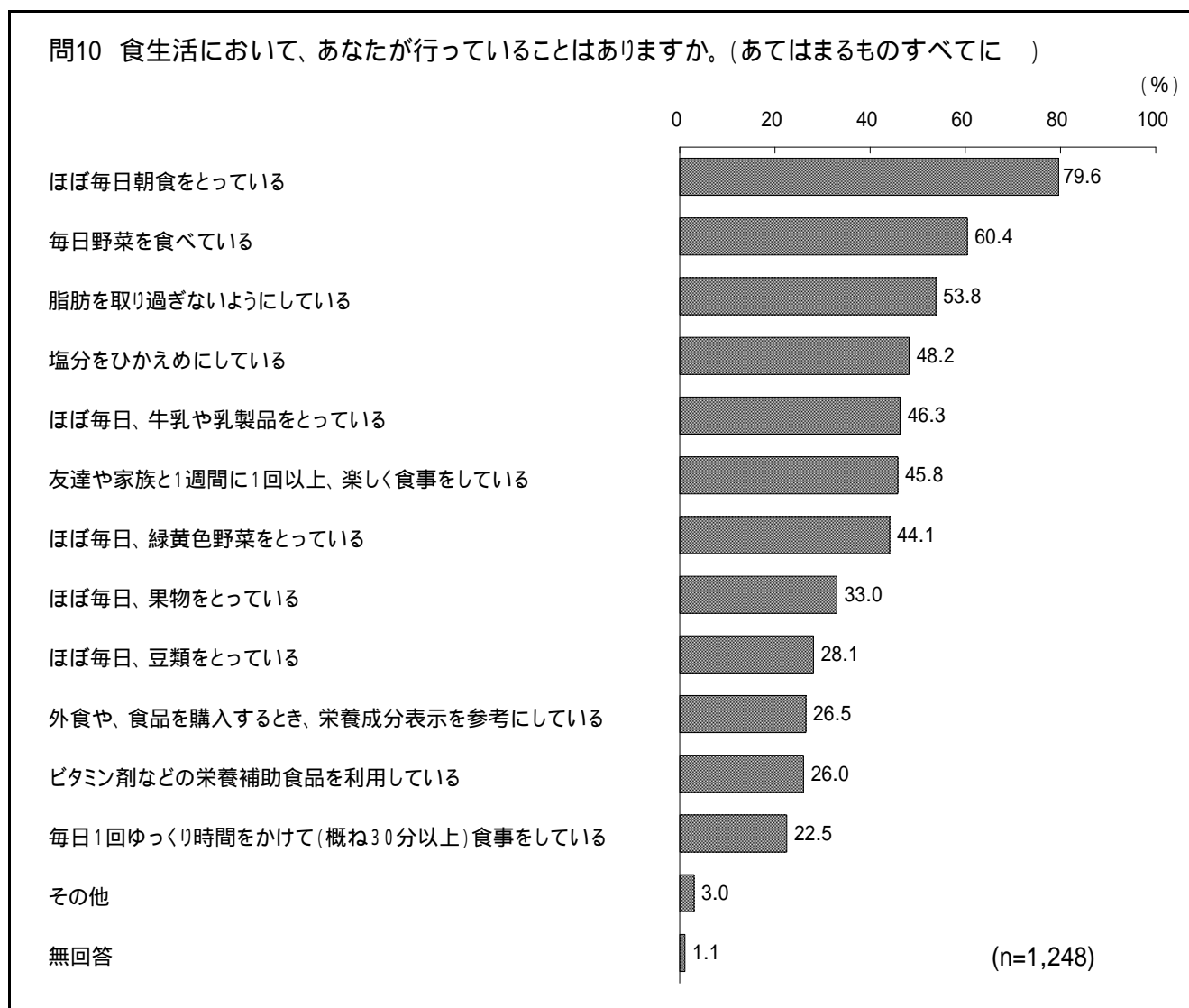
《関心がある》は女性30代が98.6%で最も高い。一方、《関心がない》は男性20代が16.1%で最も高い。

図2 - 4 - 1 食品の安全について（性・年代別）



(5) 食生活で行っていること

「ほぼ毎日朝食をとっている」が8割弱

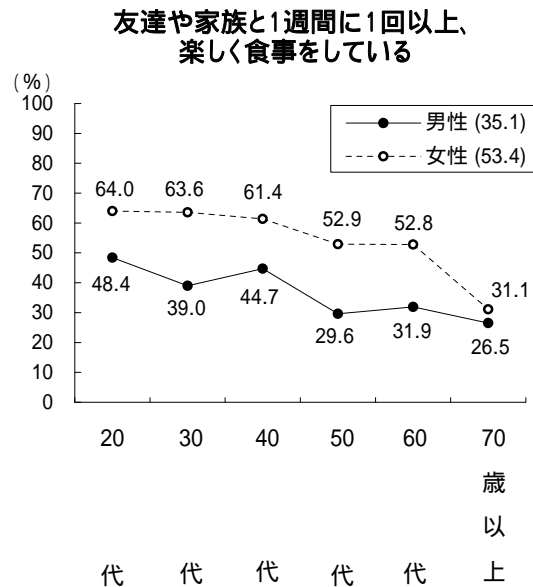
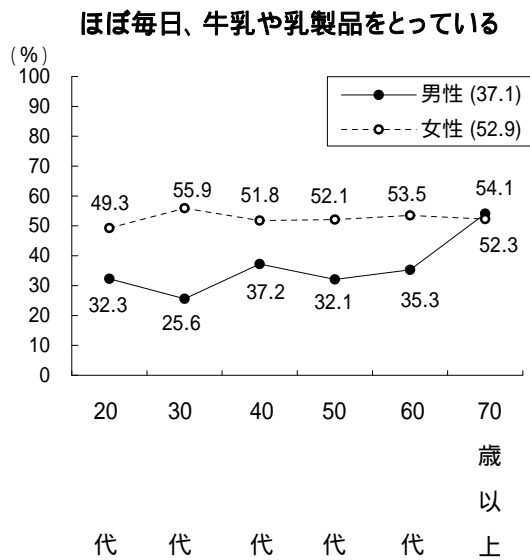
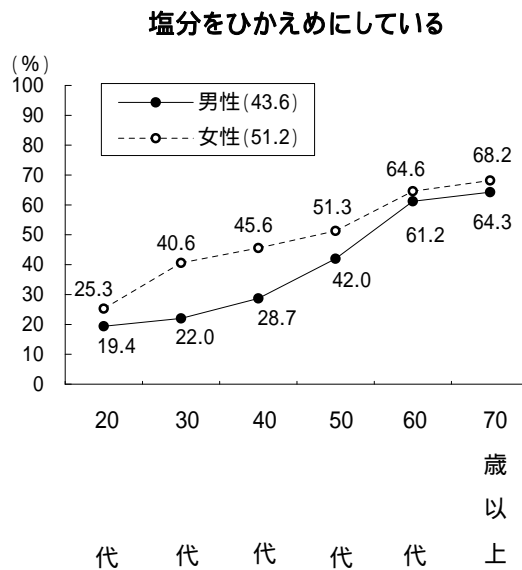
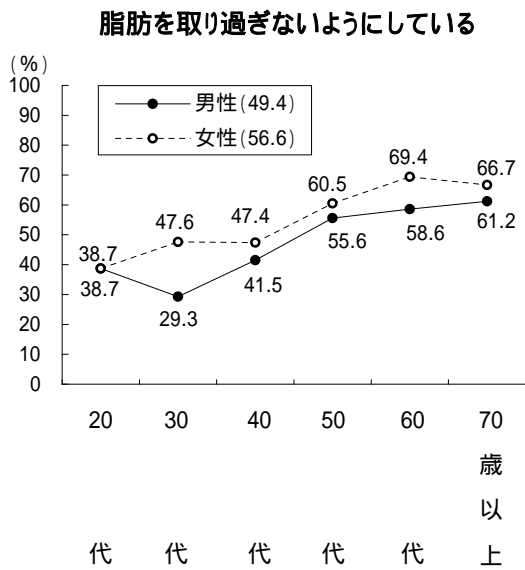
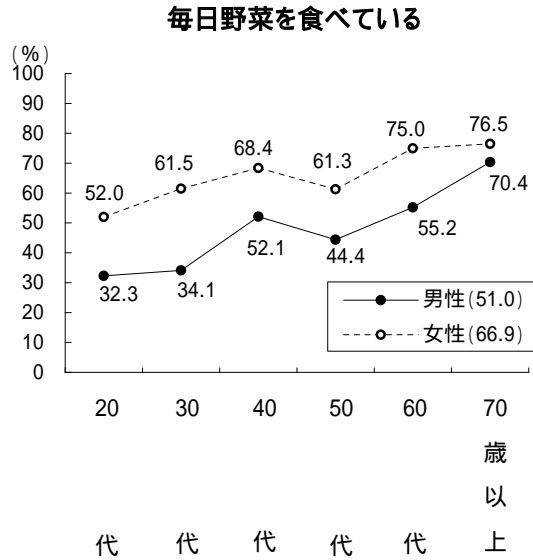
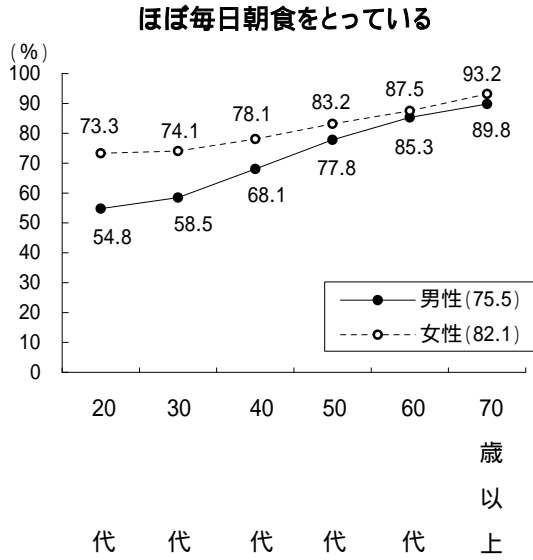


食生活における活動や行動について聞いてみると、「ほぼ毎日朝食をとっている」(79.6%)と回答した人が最も多く、以下「毎日野菜を食べている」(60.4%)、「脂肪を取り過ぎないようにしている」(53.8%)の順になっている。

性・年代別にみると、図2 - 5 - 1のとおりである。

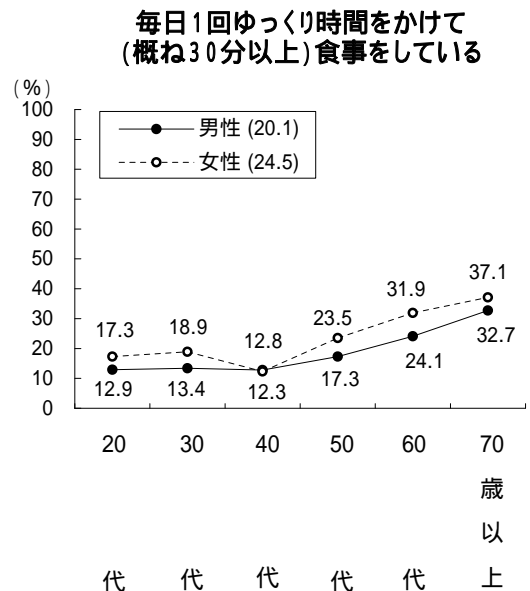
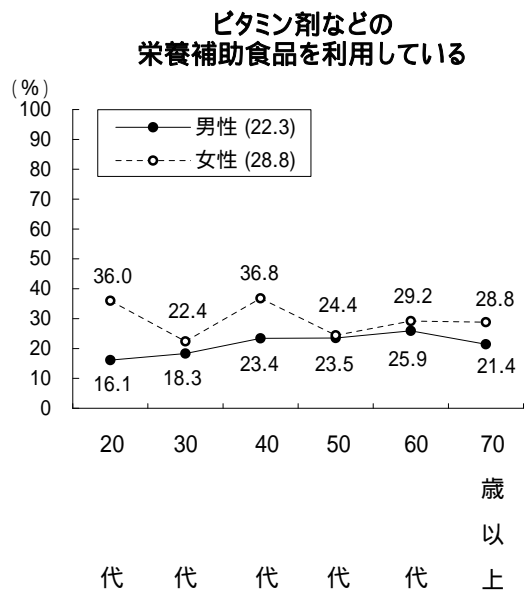
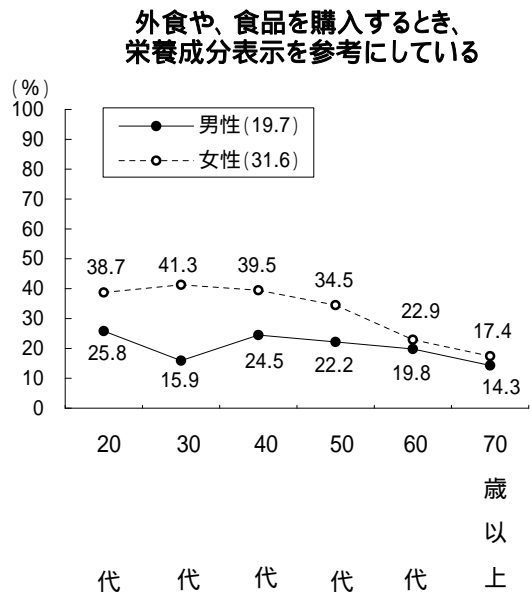
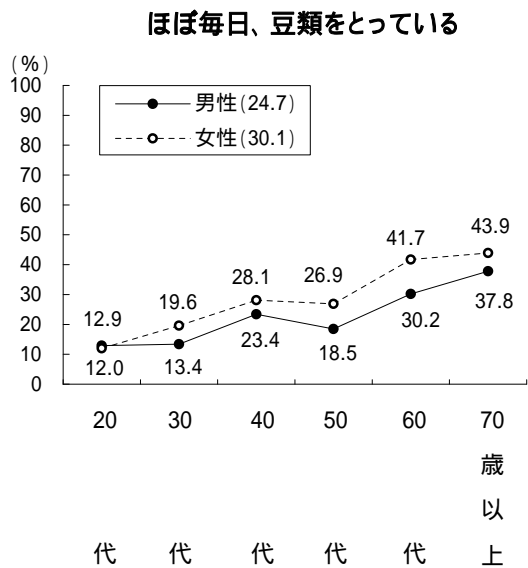
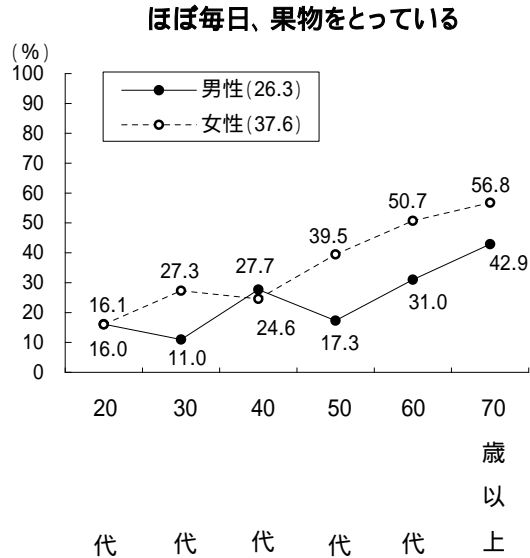
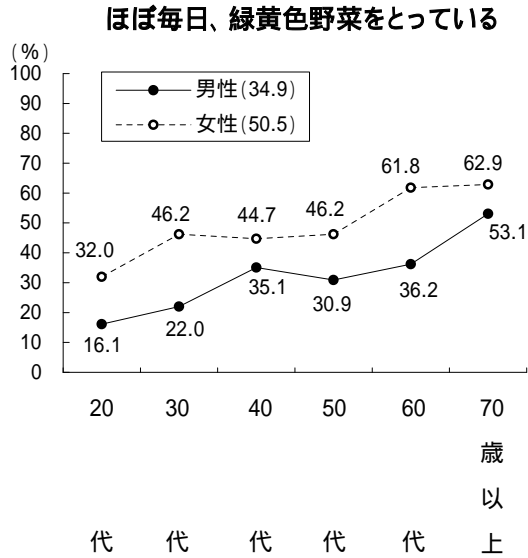
全ての項目において、女性が男性よりも高い値を示す傾向がある。

図 2 - 5 - 1 食生活で行っていること (性・年代別)



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

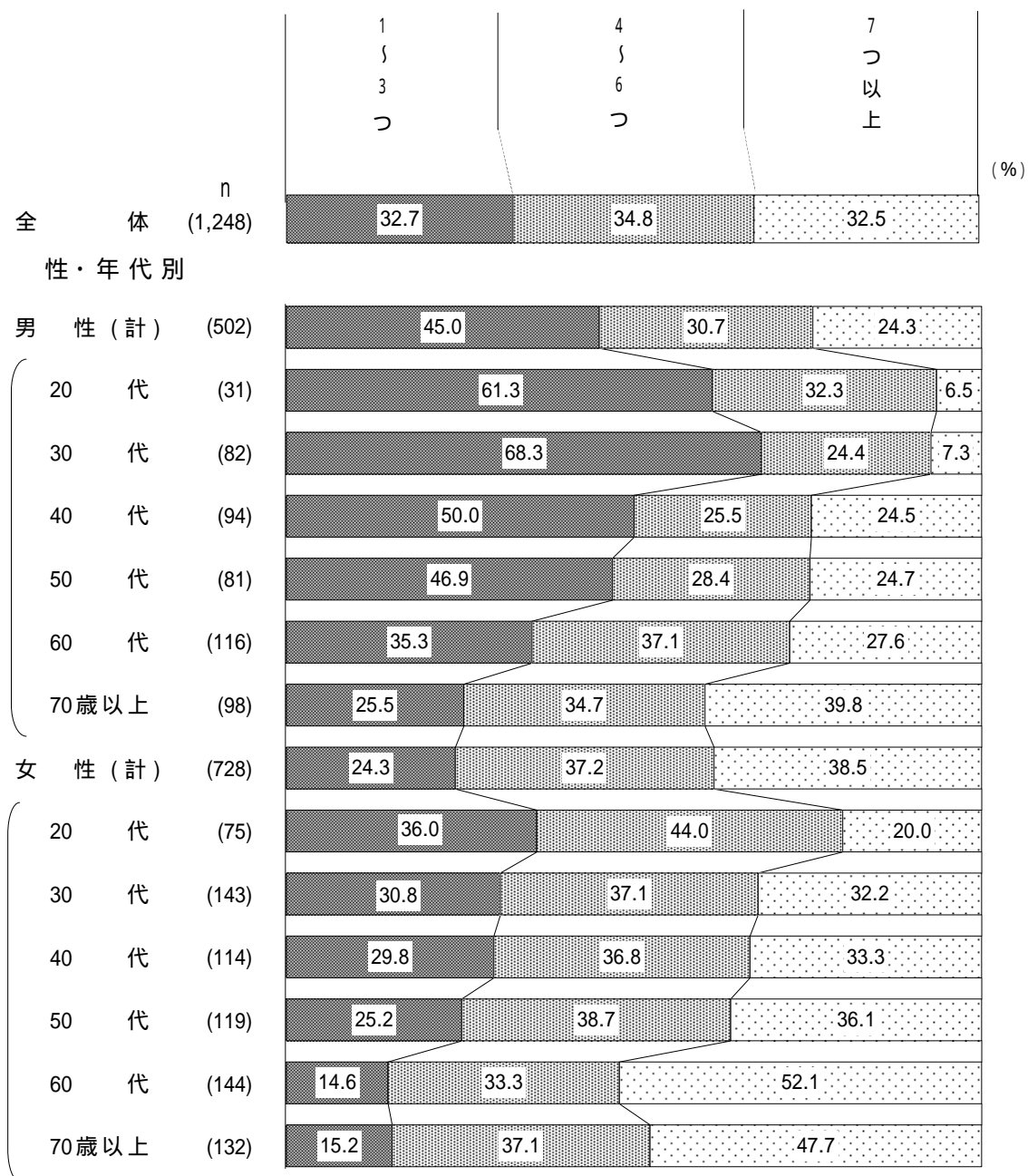
図 2 - 5 - 1 食生活で行っていること（性・年代別） - つづき -



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

「食生活で行っていること」の項目にいくつ該当したかを性・年代別にみると図2 - 5 - 2のとおりである。
 全体として、女性の方が男性より該当項目数が多い。「1～3つ」に該当する人は、男性20代と男性30代がそれぞれ61.3%と68.3%を示し6割を超え比較的高く、「7つ以上」に該当する人は、女性60代が52.1%と最も高い。

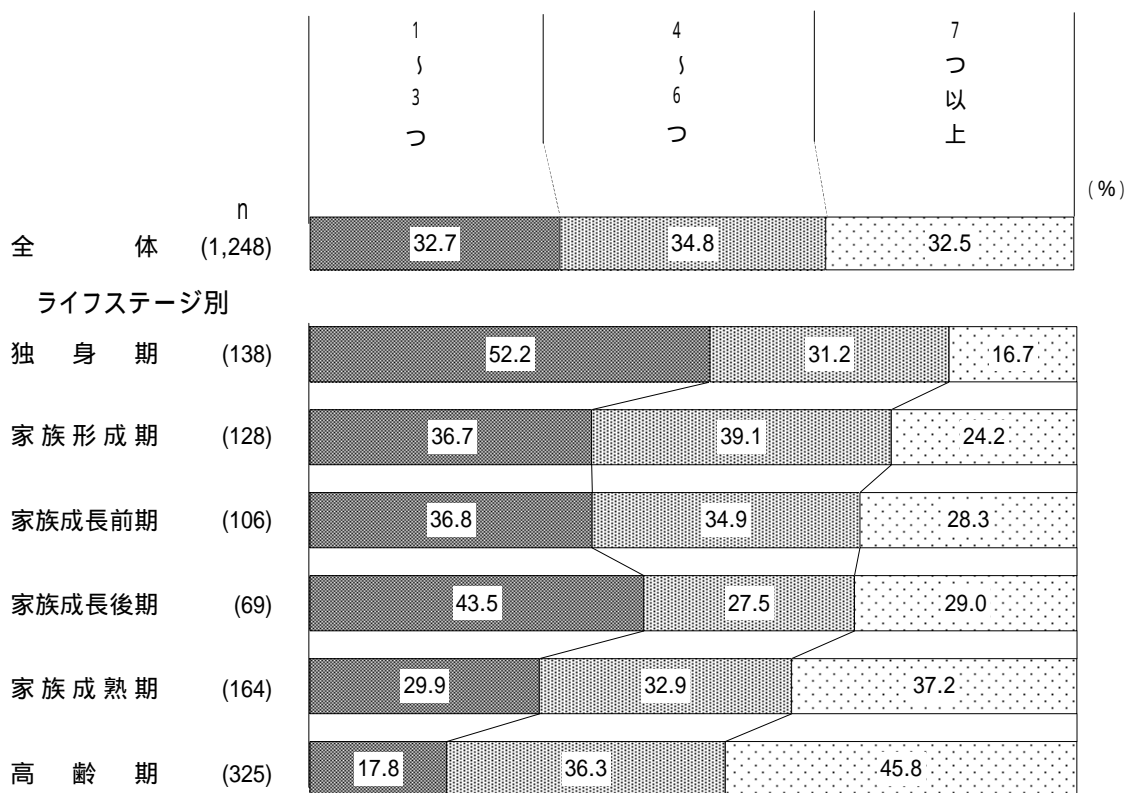
図 2 - 5 - 2 「食生活で行っていること」の項目にいくつ該当したか（性・年代別）



「食生活で行っていること」の項目にいくつ該当したかをライフステージ別にみると、図2-5-3のとおりである。

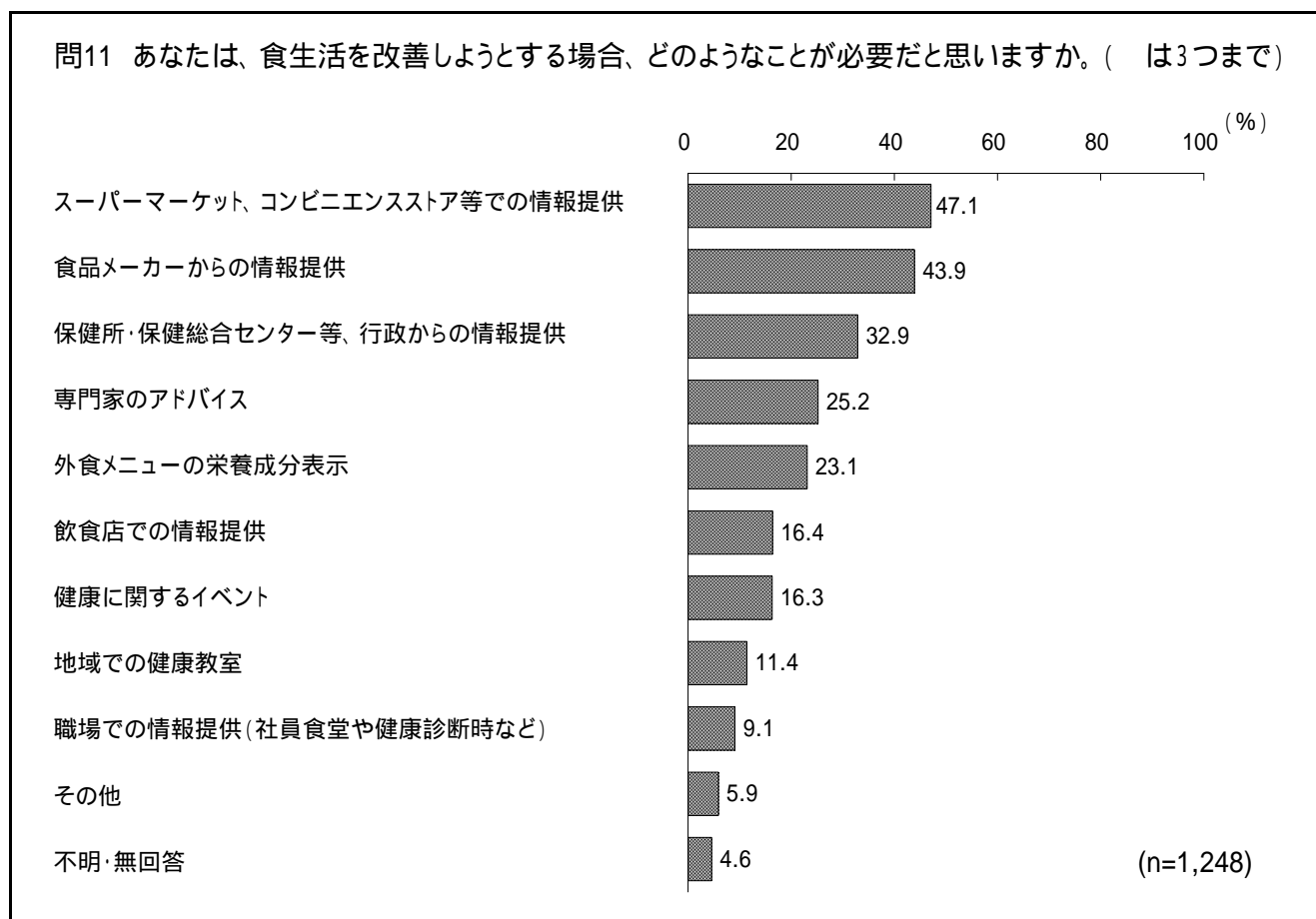
「1～3つ」に該当する人は独身期が52.2%と最も高く、一方で「7つ以上」に該当する人の割合は、ライフステージが上がるにつれ上昇し、高齢期では45.8%と最も高い。

図 2 - 5 - 3 「食生活で行っていること」の項目にいくつ該当したか（ライフステージ別）



(6) 食生活を改善する場合必要なこと

「スーパーマーケット、コンビニエンスストア等での情報提供」が47%



食生活を改善しようとする場合必要なことを聞いてみると、「スーパーマーケット、コンビニエンスストア等での情報提供」(47.1%)と「食品メーカーからの情報提供」(43.9%)が40%以上を示している。次いで、「保健所・保健総合センター等、行政からの情報提供」(32.9%)、「専門家のアドバイス」(25.2%)となっている。

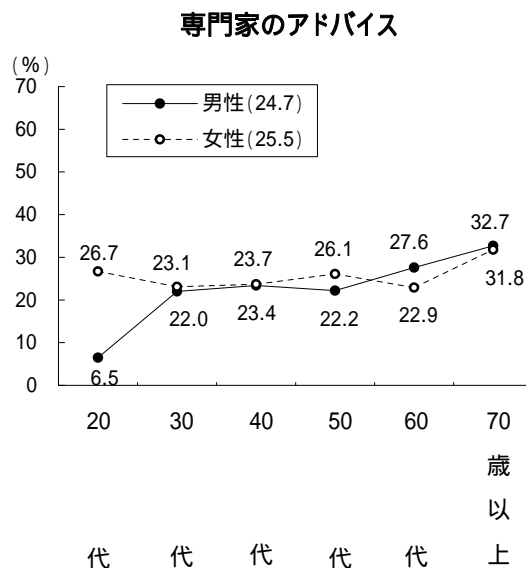
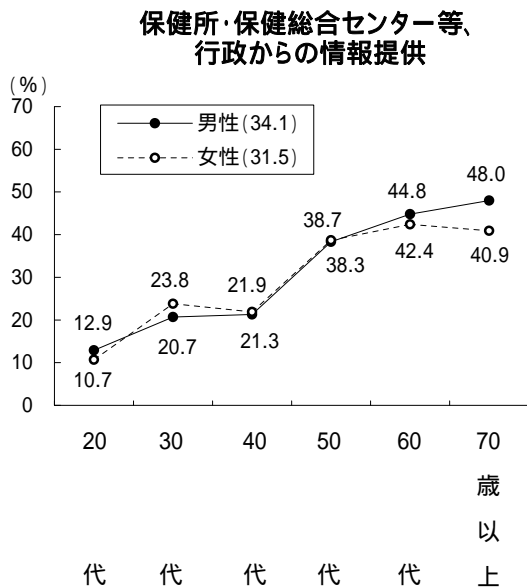
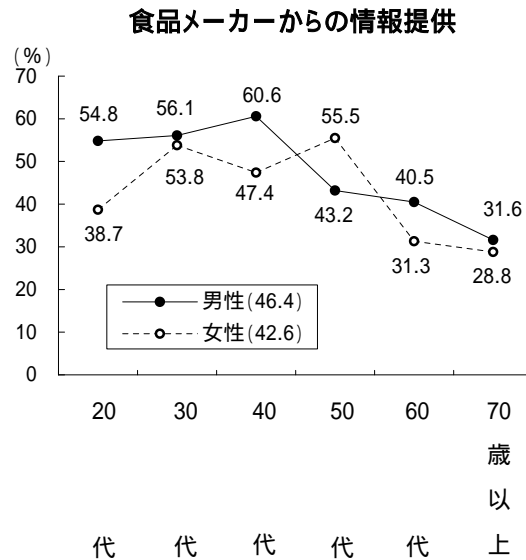
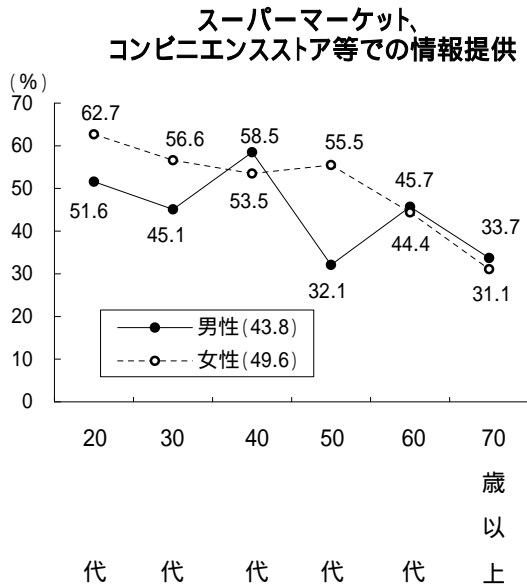
性・年代別にみると、図2 - 6 - 1のとおりである。

「スーパーマーケット、コンビニエンスストア等での情報提供」では女性20代が62.7%と最も高い。

「食品メーカーからの情報提供」では、男性40代が60.6%と最も高い。

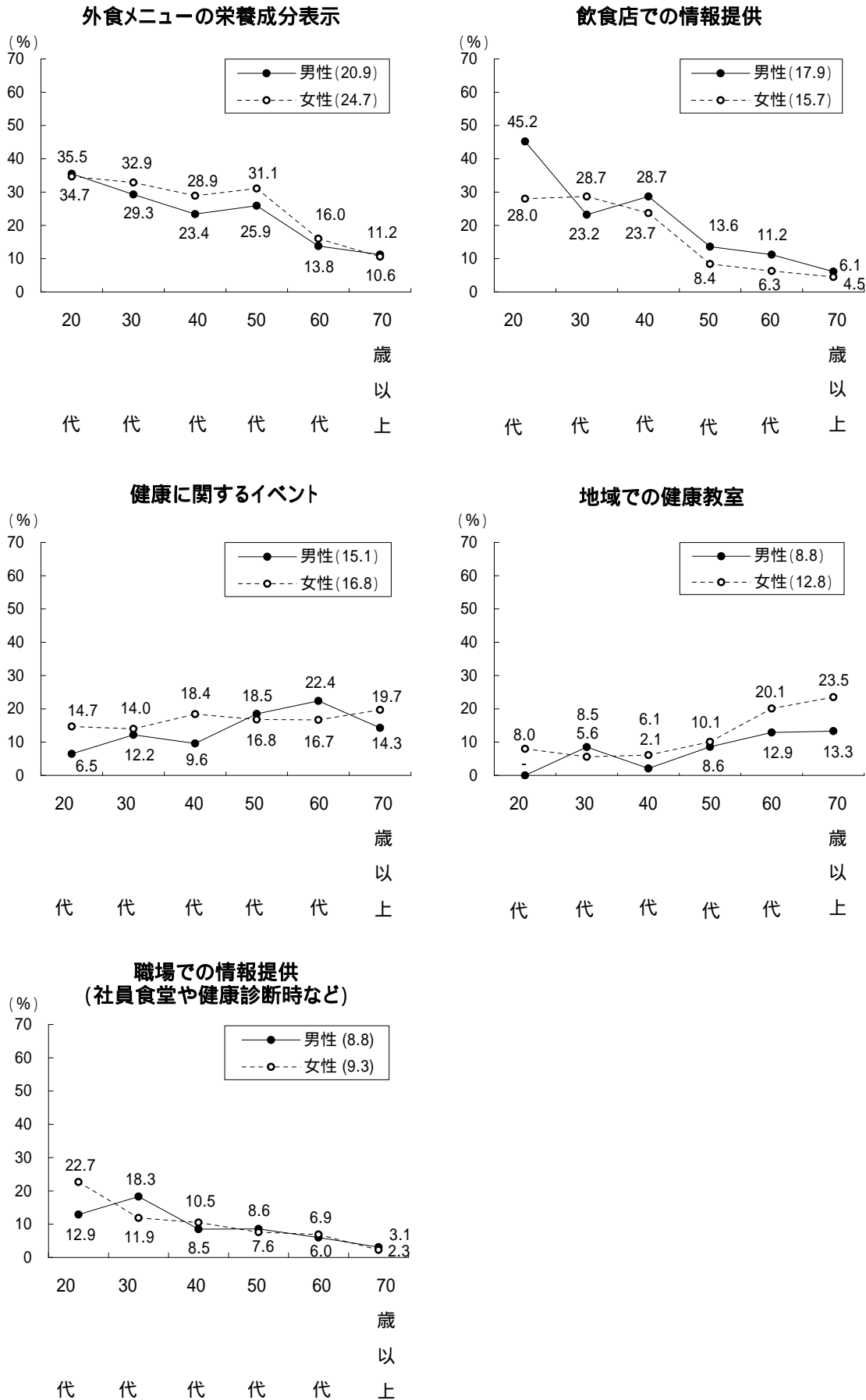
「保健所・保健総合センター等、行政からの情報提供」では70歳以上で男性が女性を7.1ポイント上回っているものの、他の年代では男女間にほとんど差はない。

図 2 - 6 - 1 食生活を改善する場合必要なこと（性・年代別）



：()内の数値は男女それぞれの全体を示す

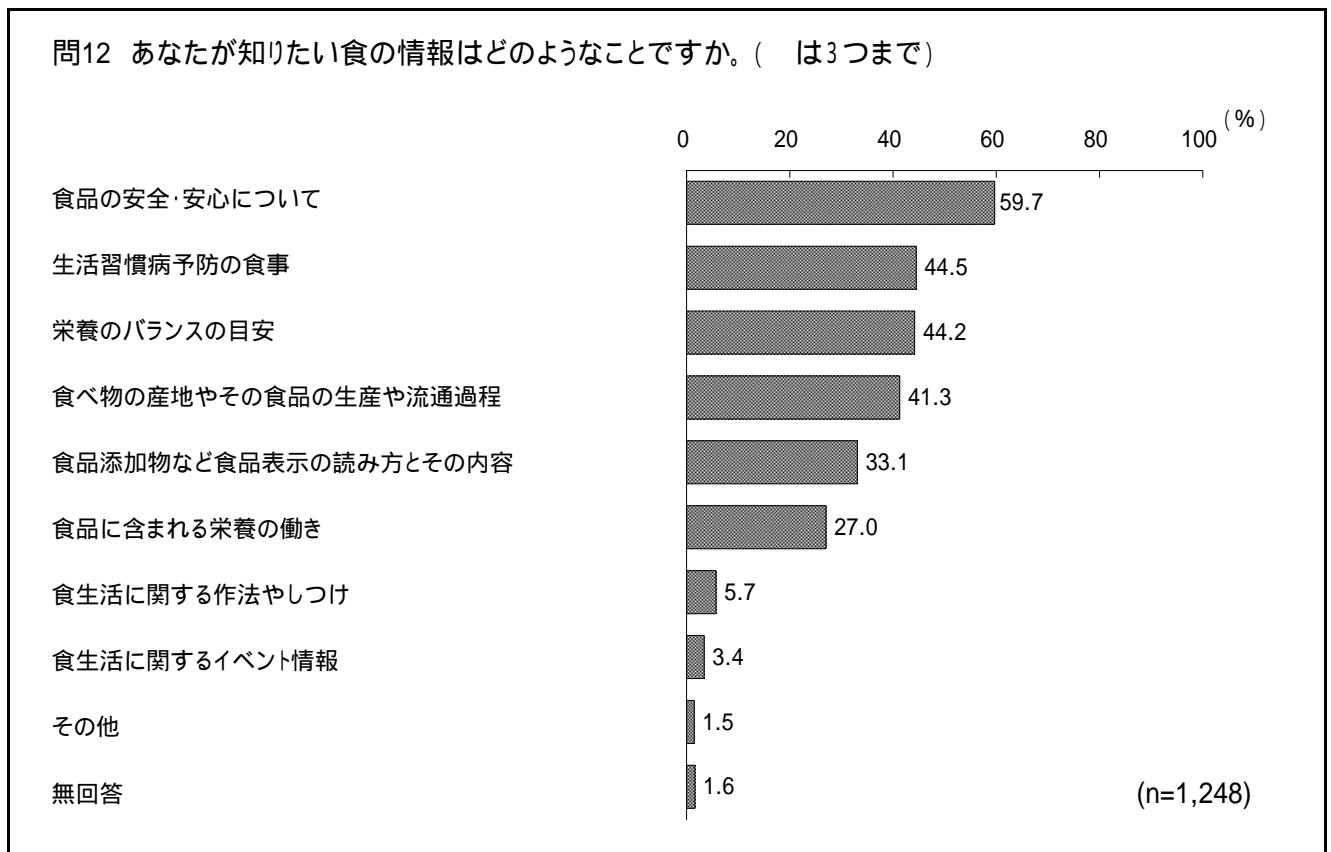
図 2 - 6 - 1 食生活を改善する場合必要なこと（性・年代別） - つづき -



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(7) 知りたい食の情報

「食品の安全・安心について」が6割弱



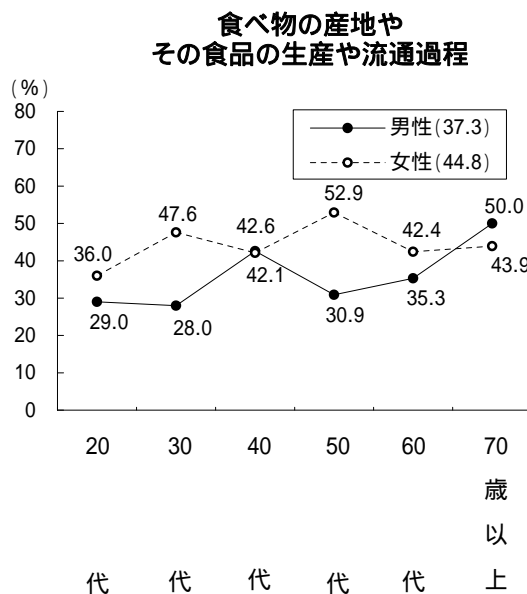
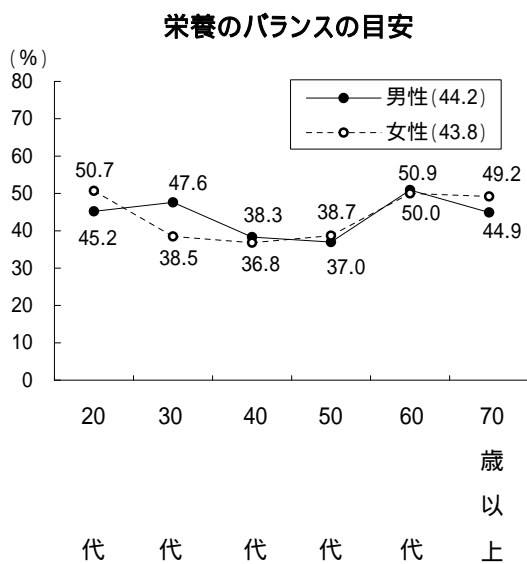
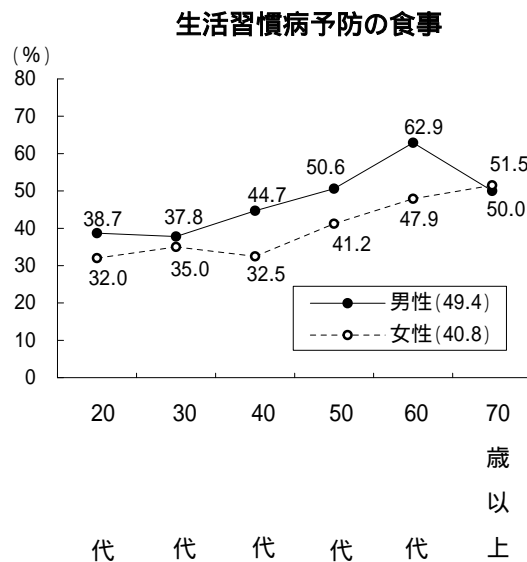
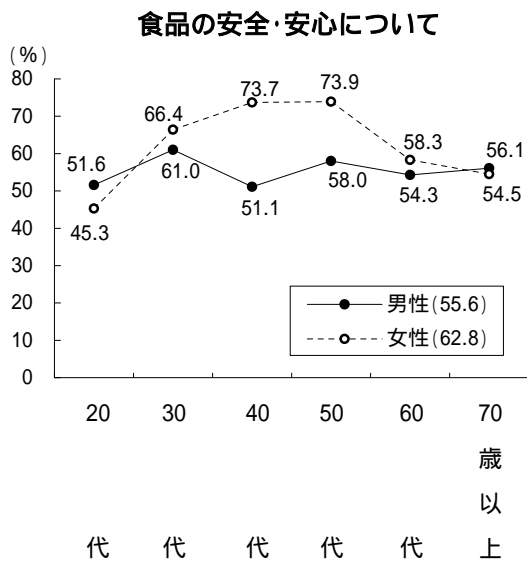
知りたい食の情報について聞いてみると、「食品の安全・安心について」(59.7%)が最も高い。次いで「生活習慣病予防の食事」(44.5%)、「栄養のバランスの目安」(44.2%)、「食べ物の産地やその食品の生産や流通過程」(41.3%)が40%を超えている。

性・年代別にみると、図2 - 7 - 1のとおりである。

「食品の安全について」では女性40代、女性50代がそれぞれ73.7%と73.9%と70%以上の高い値を示し、同年代の男性との差が15ポイント以上ある。

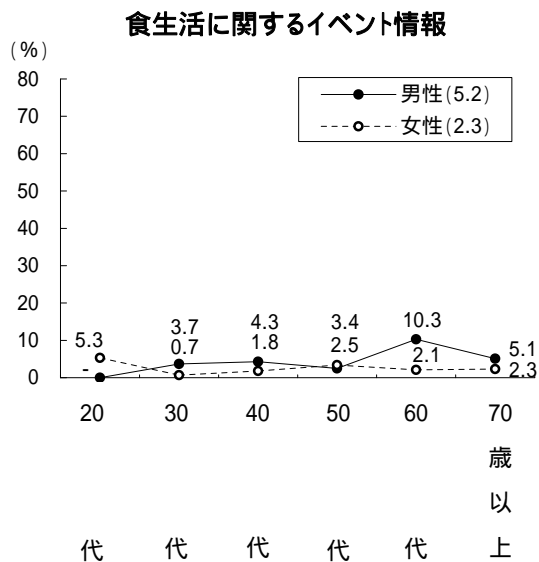
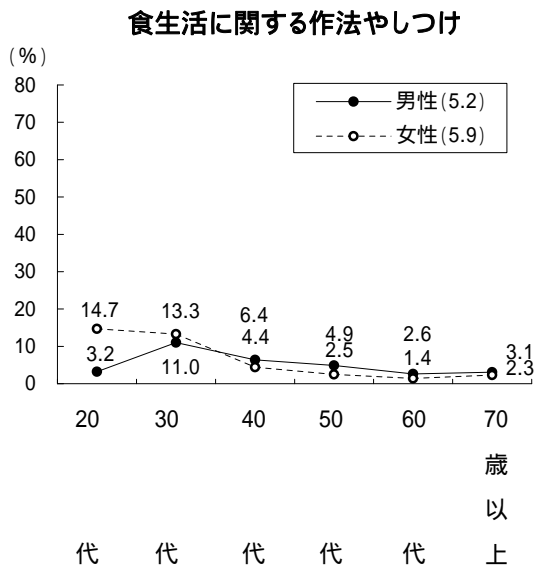
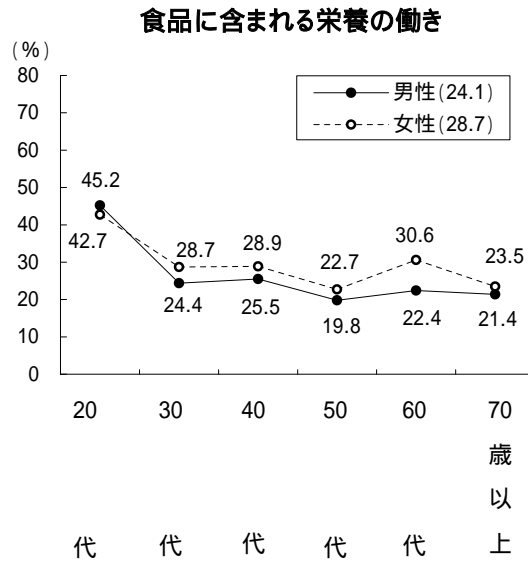
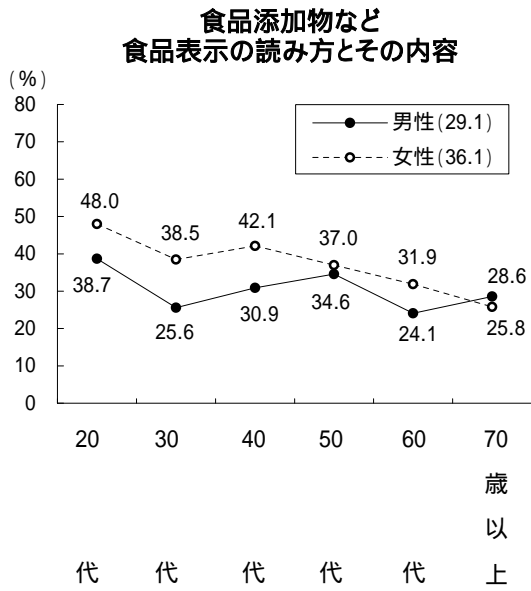
「生活習慣病予防の食事」では、男性50代以上は50%を超え、男女共に年代が上がるにつれ上昇する傾向がある。

図 2 - 7 - 1 知りたい食の情報 (性・年代別)



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

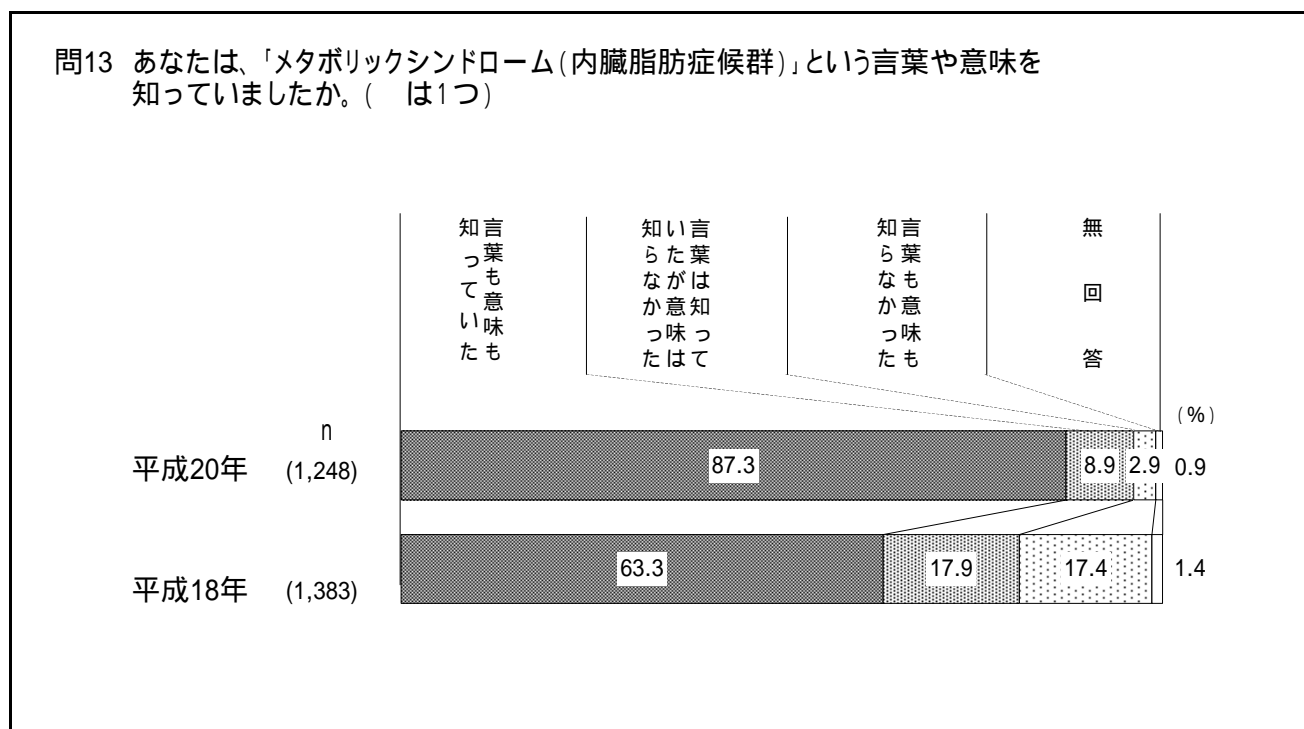
図 2 - 7 - 1 知りたい食の情報 (性・年代別) - つづき -



: ()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(8) メタボリックシンドロームについて

「言葉も意味も知っていた」が最も高く 9 割弱



メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)について聞いてみると、「言葉も意味も知っていた」と回答した人が87.3%で最も高く、「言葉は知っていたが意味は知らなかった」は8.9%、「言葉も意味も知らなかった」は2.9%である。

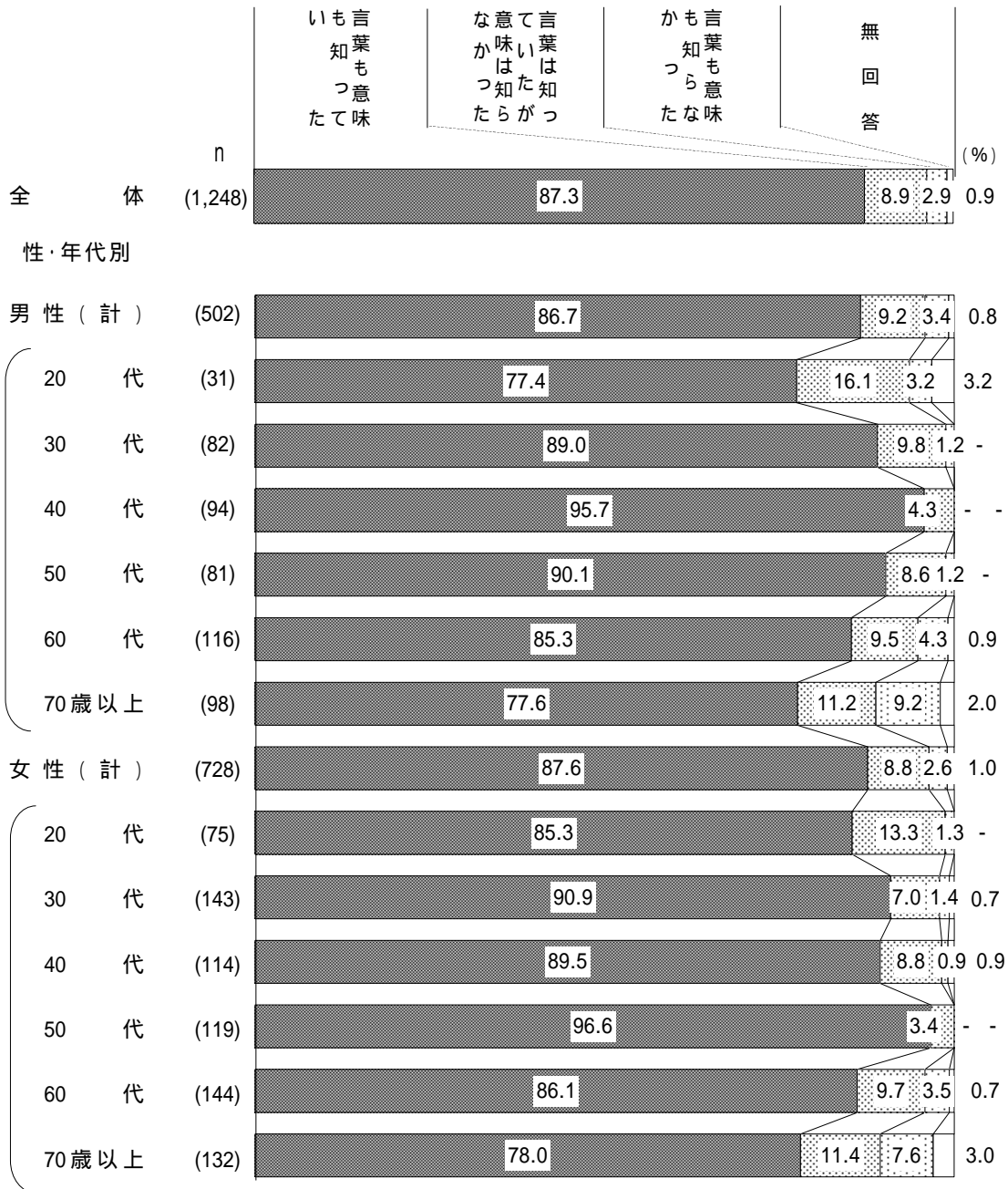
平成18年と比べてみると、「言葉も意味も知っていた」と回答した人が24ポイント増加していることがわかる。また、「言葉も意味も知らなかった」と回答した人は14.5ポイント減少し、平成18年(17.4%)の6分の1の2.9%を示している。

性・年代別にみると、図2 - 8 - 1のとおりである。

「言葉も意味も知っていた」と答えた人は、男女共にいずれの年代でも75%以上を示している。

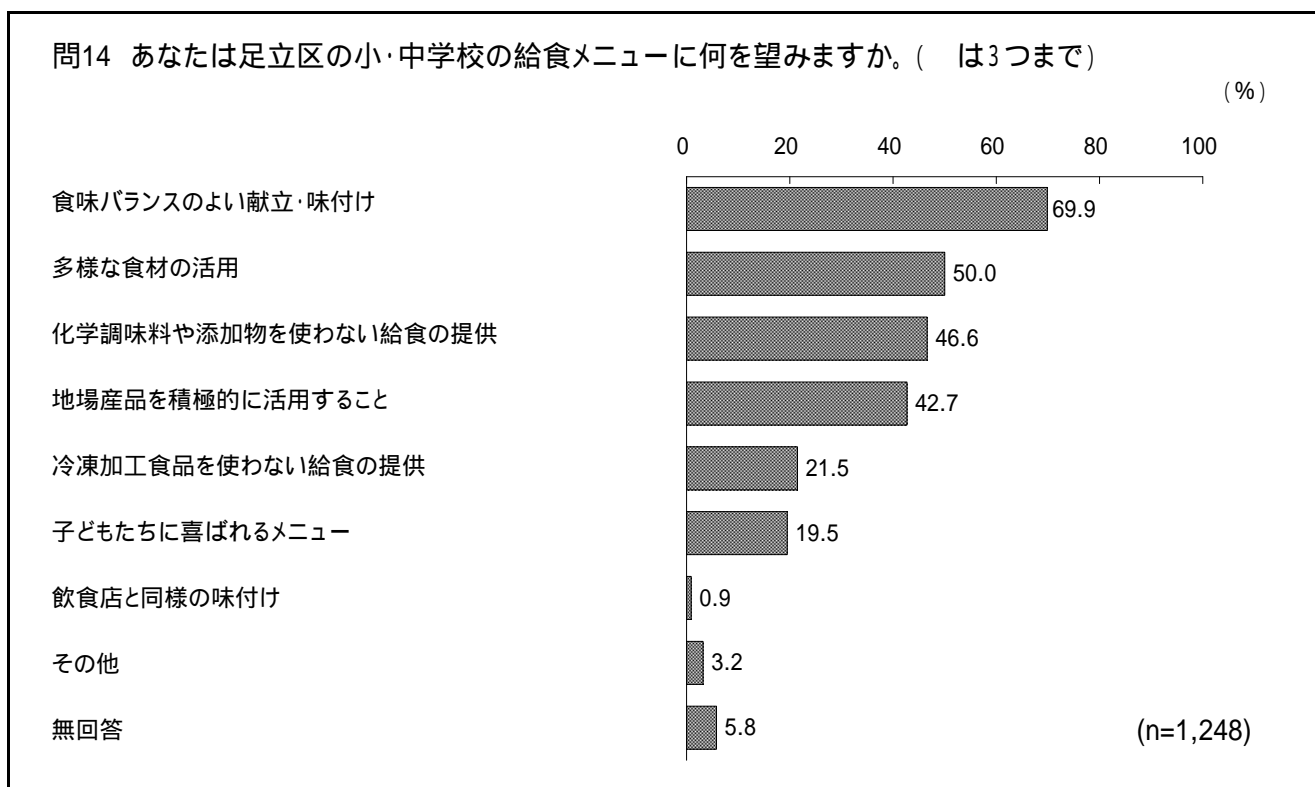
「言葉も意味も知らなかった」と答えた人は男性70歳以上、女性70歳以上でそれぞれ9.2%と7.6%を示し他の年代よりも高い。

図2 - 8 - 1 メタボリックシンドロームについて（性・年代別）



(9) 足立区の小・中学校の給食に望むこと

「食味バランスのよい献立・味付け」が7割弱

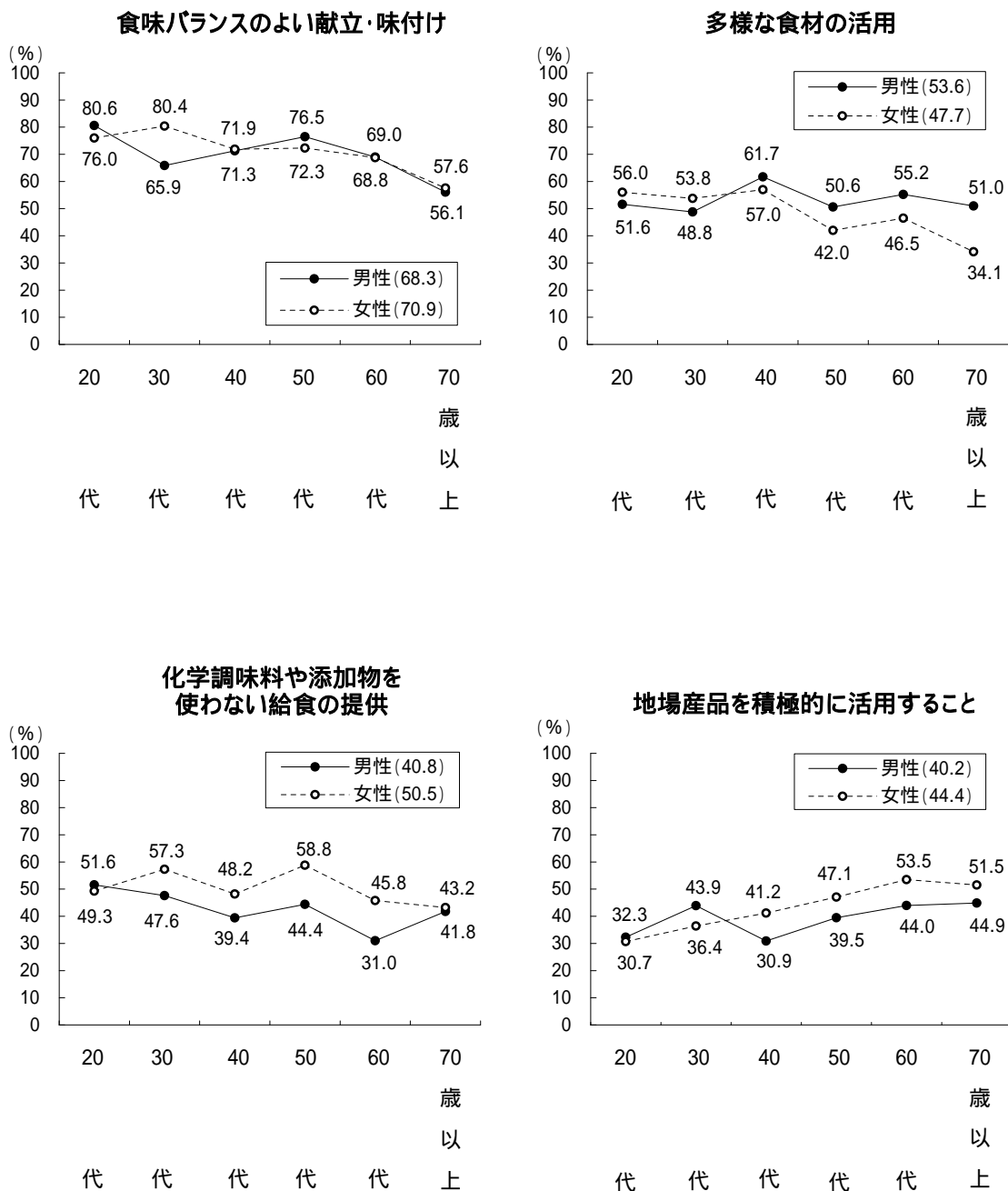


小・中学校の給食のメニューに望むことを聞いてみると、「食味バランスのよい献立・味付け」(69.9%)が最も高く、次いで「多様な食材の活用」(50.0%)、「化学調味料や添加物を使わない給食の提供」(46.6%)となっている。

性・年代別にみると、図2 - 9 - 1のとおりである。

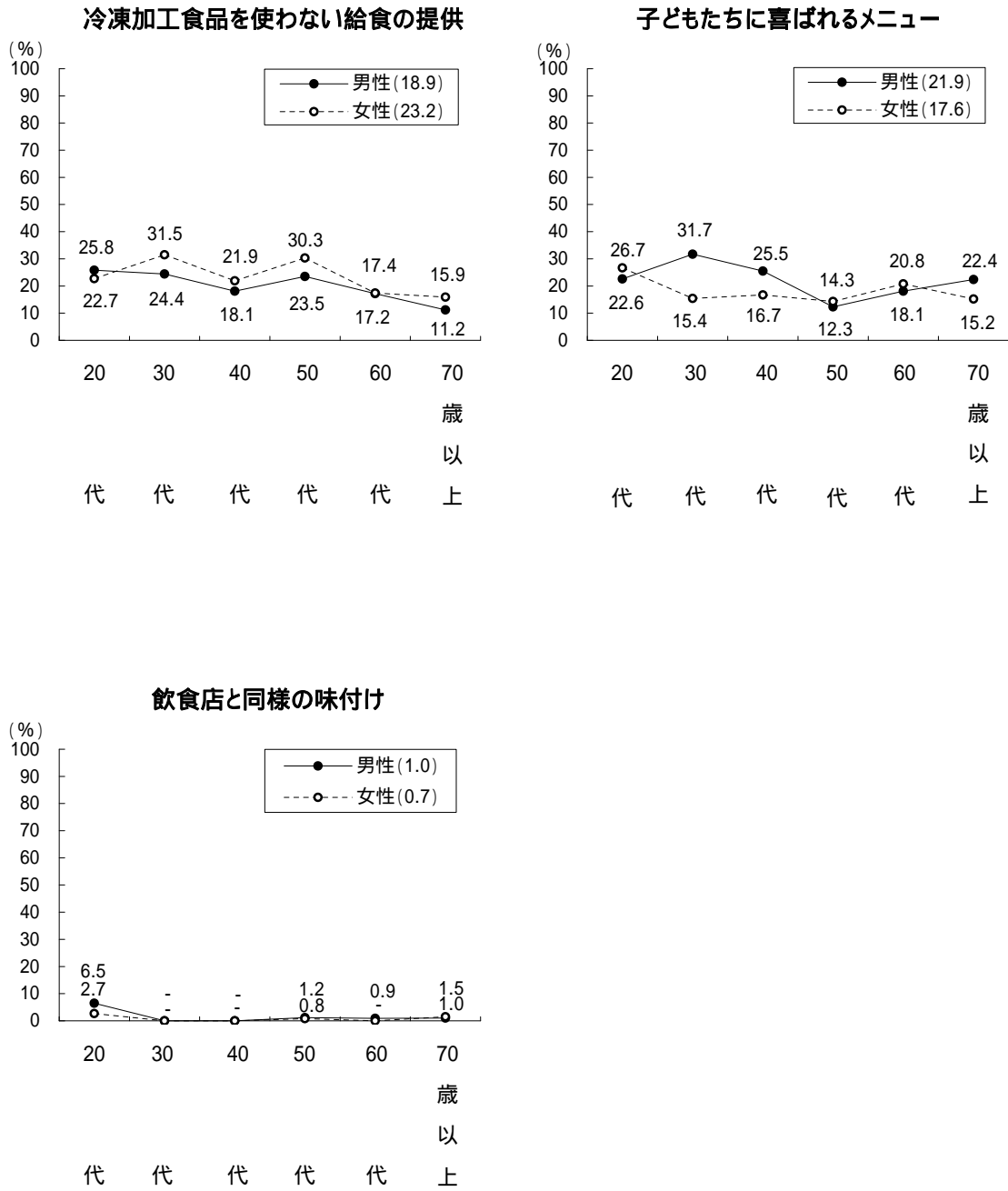
「食味バランスのよい献立・味付け」においては、男性では20代が80.6%と最も高く、女性では30代が80.4%と最も高い値を示している。「化学調味料や添加物を使わない給食の提供」では、20代を除く年代で女性の方が男性よりも割合が高い傾向にある。「子どもたちに喜ばれるメニュー」は、30代で男性31.7%、女性15.4%と差がみられる。

図 2 - 9 - 1 足立区の小・中学校の給食に望むこと（性・年代別）



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

図 2 - 9 - 1 足立区の小・中学校の給食に望むこと（性・年代別） - つづき -



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

ライフステージ別にみると、図2-9-2のとおりである。

「食味バランスのよい献立・味付け」では「家族成長後期」が84.1%と最も高く、独身期(76.8%)、家族形成期(78.9%)、家族成長前期(73.6%)で7割を超えている。「多様な食材の活用」では「家族成長前期」が63.2%と最も高く、高齢期を除くいずれの年代でも5割を超えている。

図2-9-2 足立区の小・中学校の給食に望むこと (ライフステージ別)

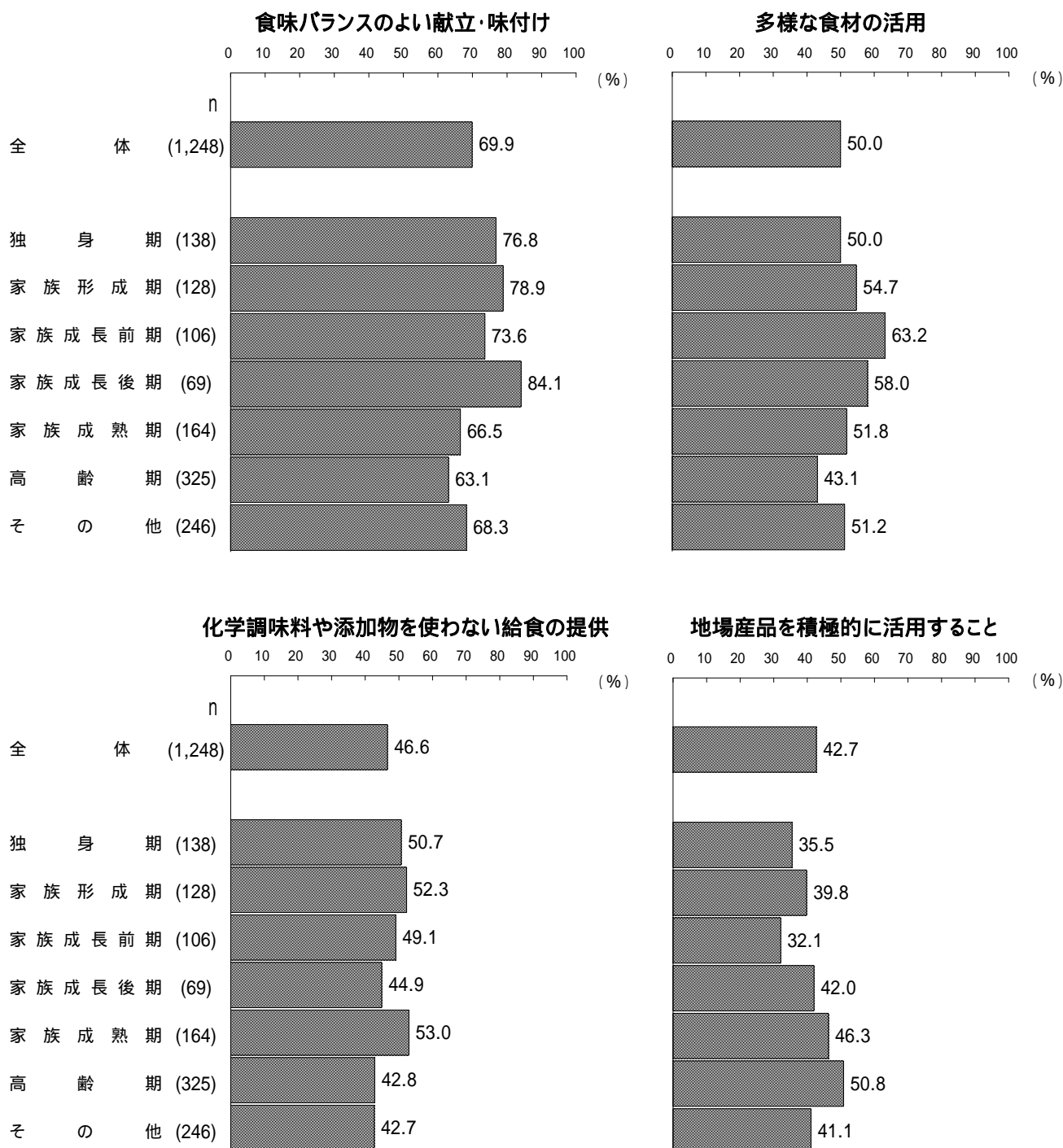
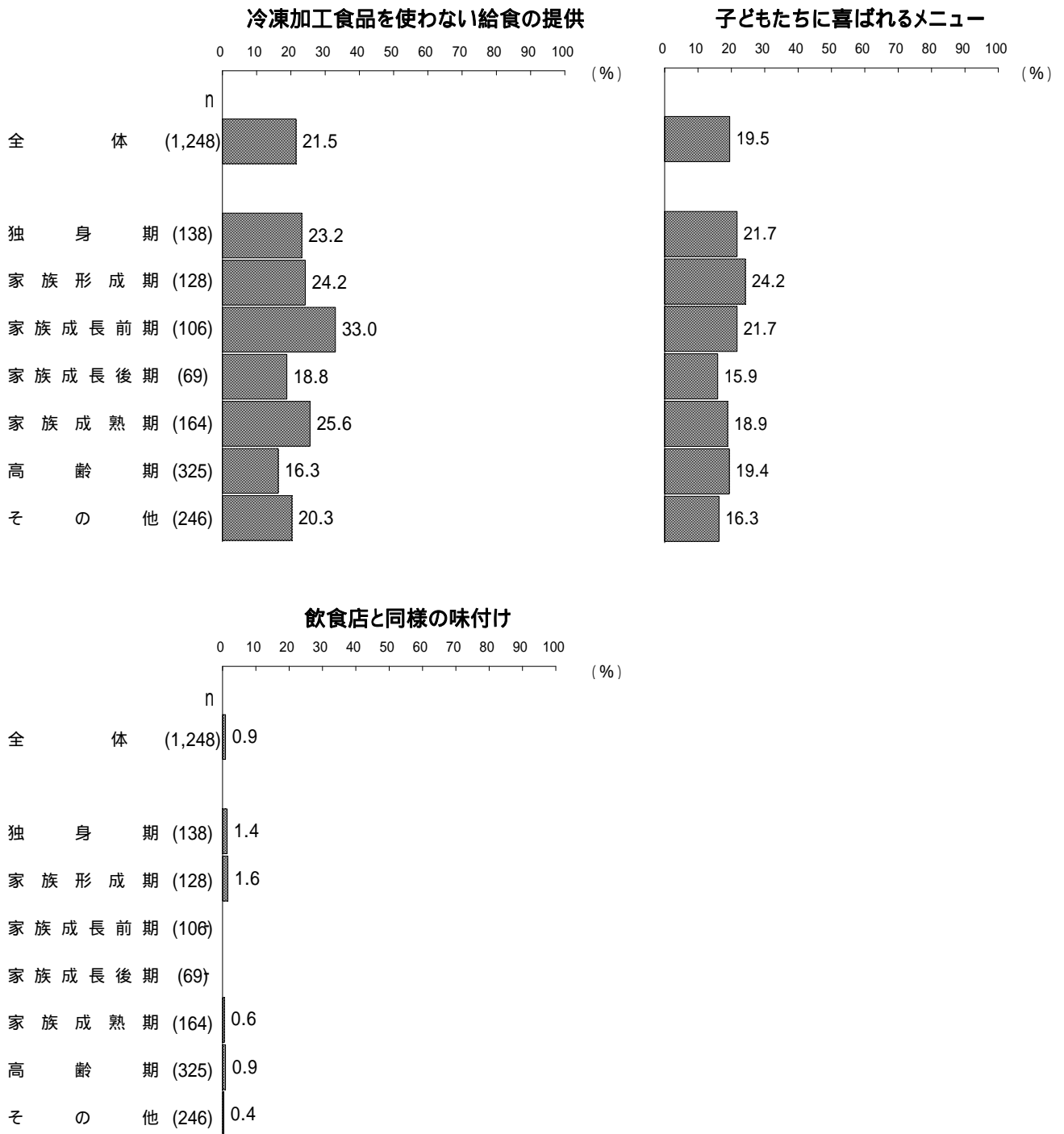
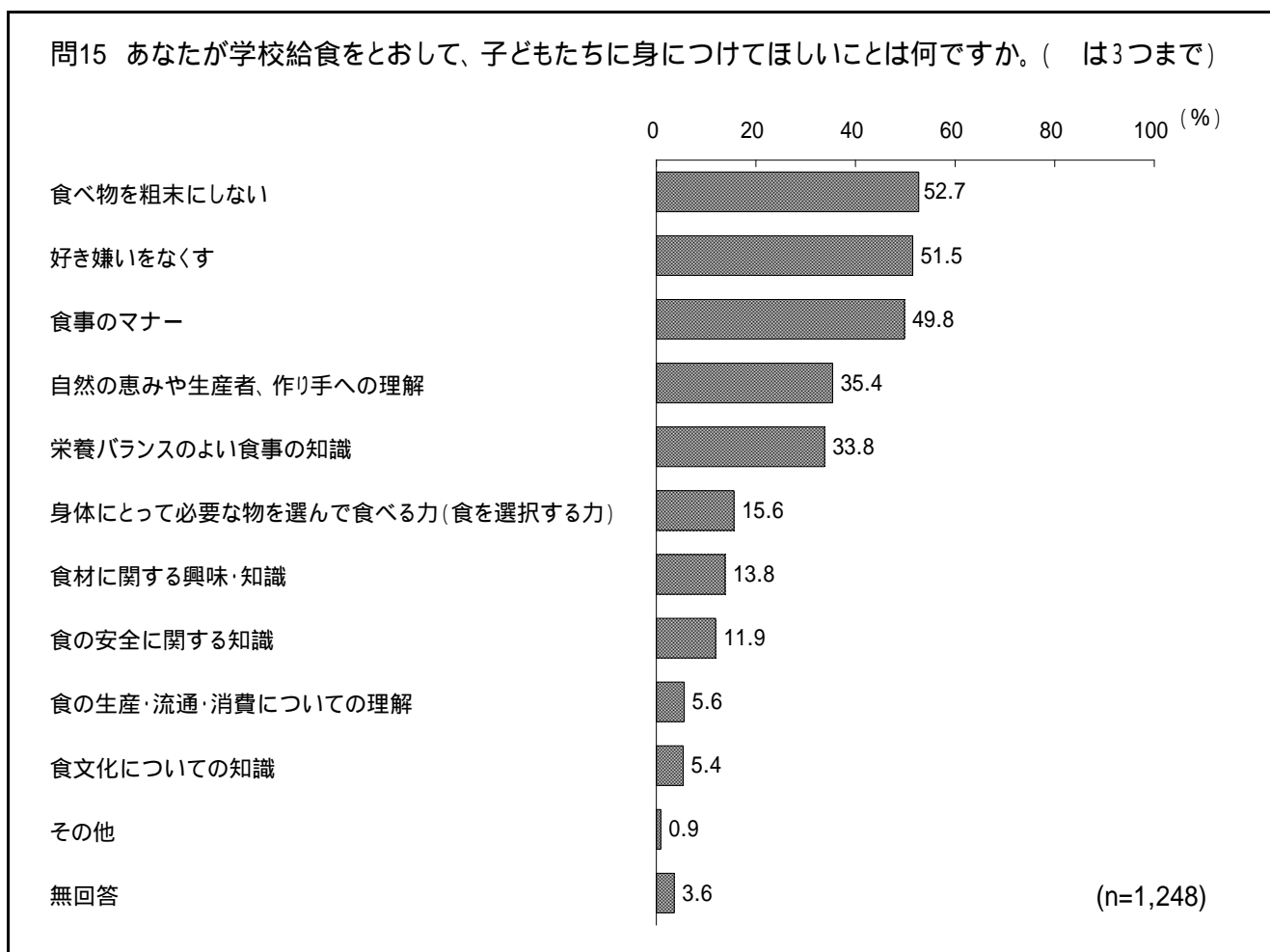


図 2 - 9 - 2 足立区の小・中学校の給食に望むこと (ライフステージ別) - つづき -



(10) 学校給食を通して、子どもたちに身につけてほしいこと

「食べ物を粗末にしない」が52.7%

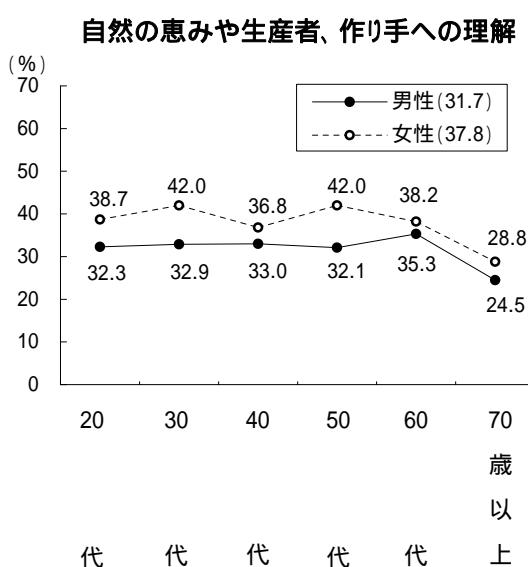
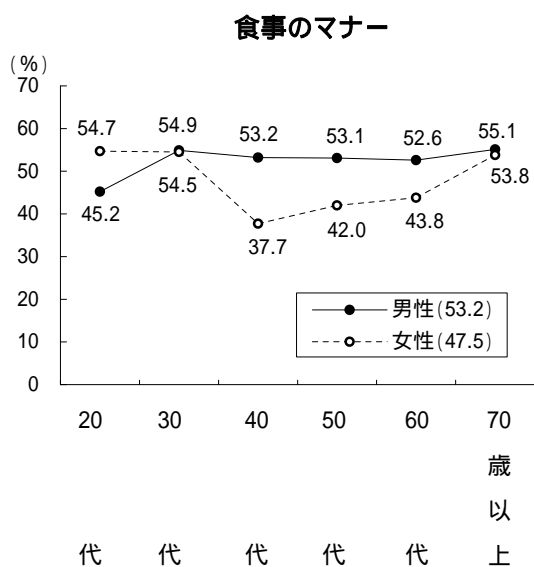
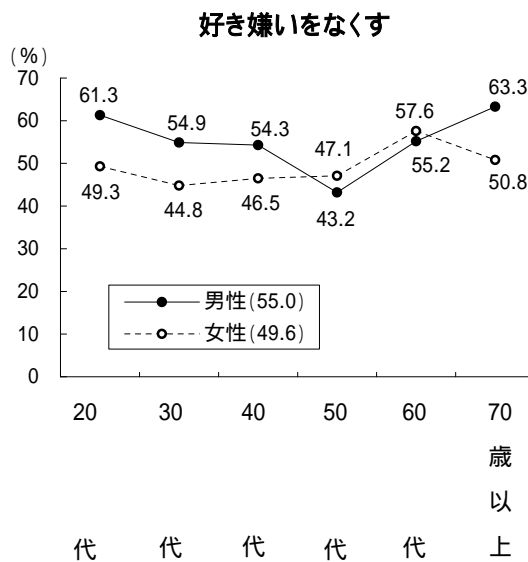
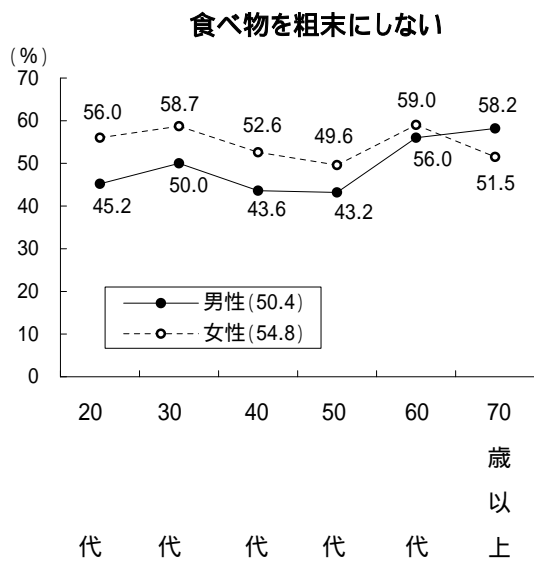


学校給食をとおして、子どもたちに身につけてほしいことを聞いてみると、「食べ物を粗末にしない」(52.7%)が最も高く、次いで「好き嫌いをなくす」(51.5%)、「食事のマナー」(49.8%)と続いている。

性・年代別にみると、図2 - 10 - 1のとおりである。

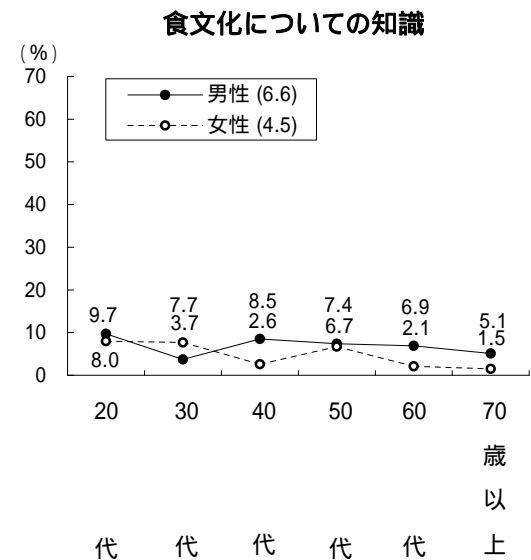
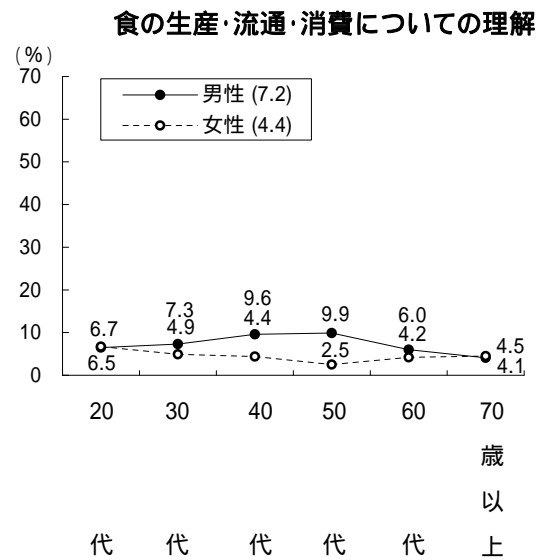
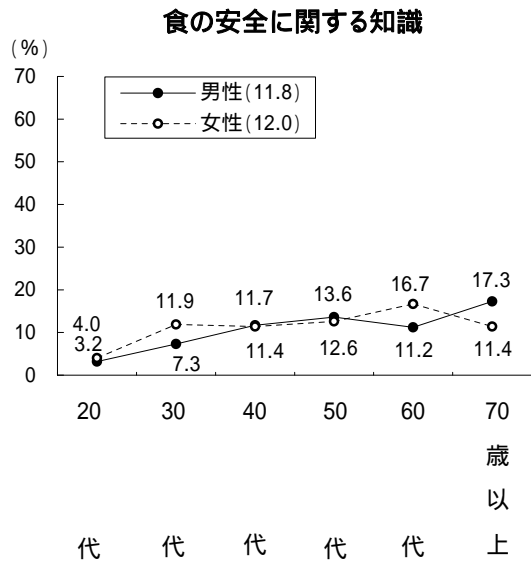
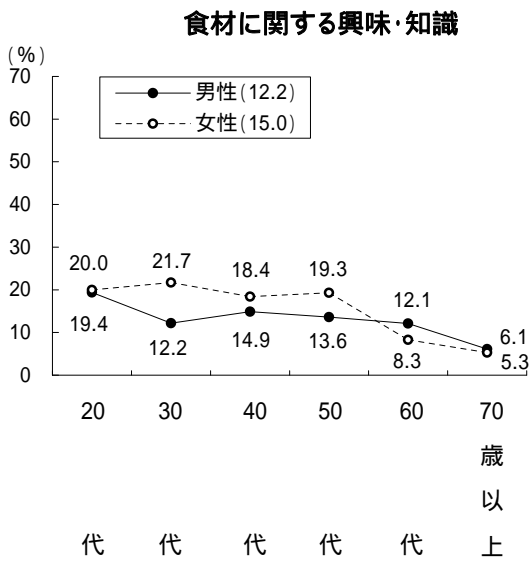
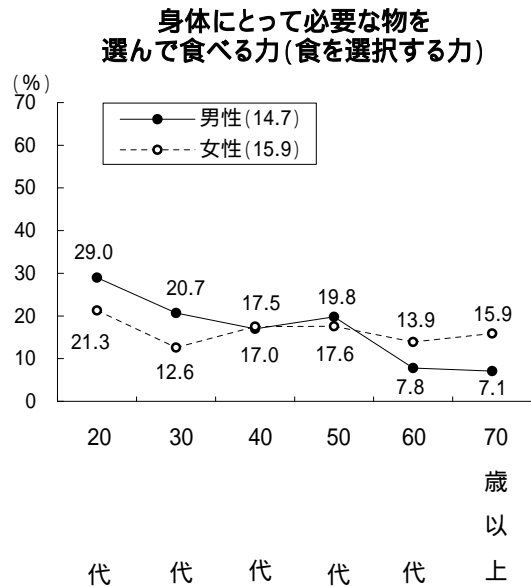
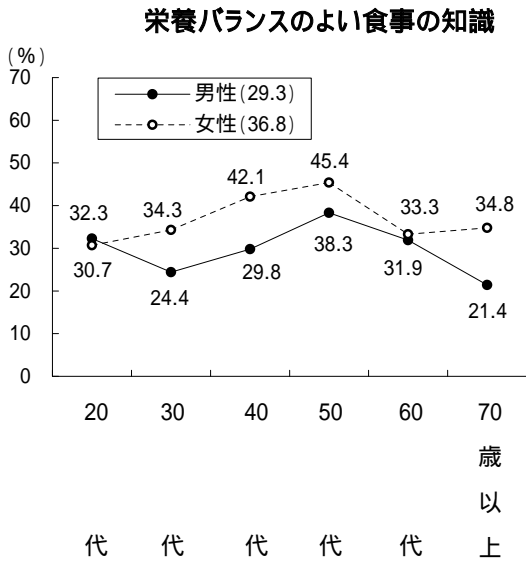
全体で第1位にあげられた「食べ物を粗末にしない」においては、女性の方が男性よりも高い傾向にあるが、「好き嫌いをなくす」においては、男性は50代を除いた他の年代は50%を超えており、「食事のマナー」においては男性の30代以上が50%を超え、高い傾向にある。

図 2 - 10 - 1 学校給食を通して、子どもたちに身につけてほしいこと（性・年代別）



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

図 2 - 10 - 1 学校給食を通して、子どもたちに身につけてほしいこと（性・年代別） - つづき -



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

ライフステージ別にみると、図2 - 10 - 2のとおりである。

「食べ物を粗末にしない」では「家族形成期」が59.4%と最も高く、「家族成長後期」と「家族成熟期」を除くいずれのライフステージで5割を超えている。「好き嫌いをなくす」においては「家族成長前期」が62.3%と最も高く、「家族成長後期」が39.1%と最も低い。「食事のマナー」では「独身期」と「家族形成期」がそれぞれ57.2%と54.7%で高い値を示している。

図 2 - 10 - 2 学校給食を通して、子どもたちに身につけてほしいこと（ライフステージ別）

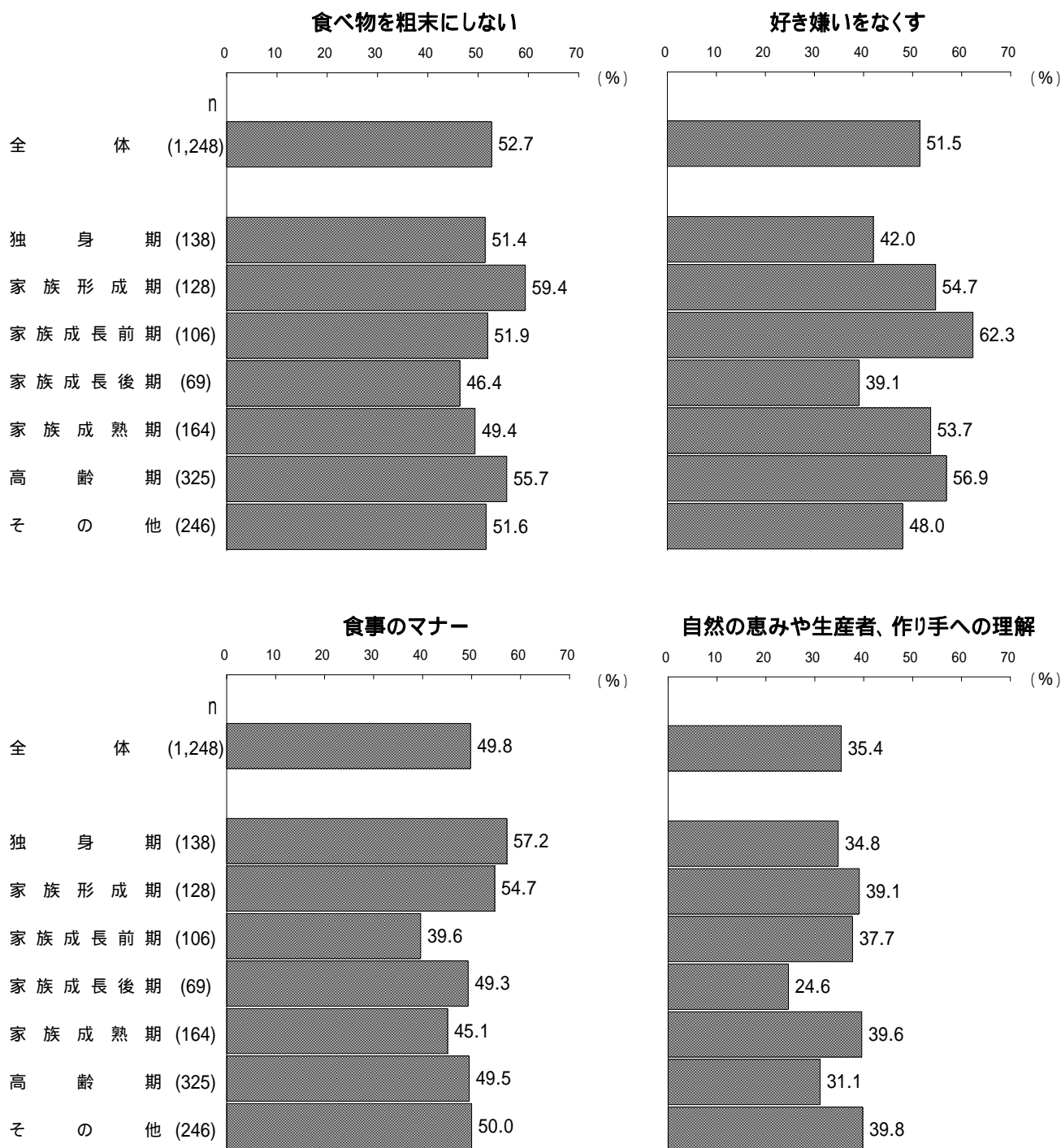


図 2 - 10 - 2 学校給食を通して、子どもたちに身につけてほしいこと（ライフステージ別）

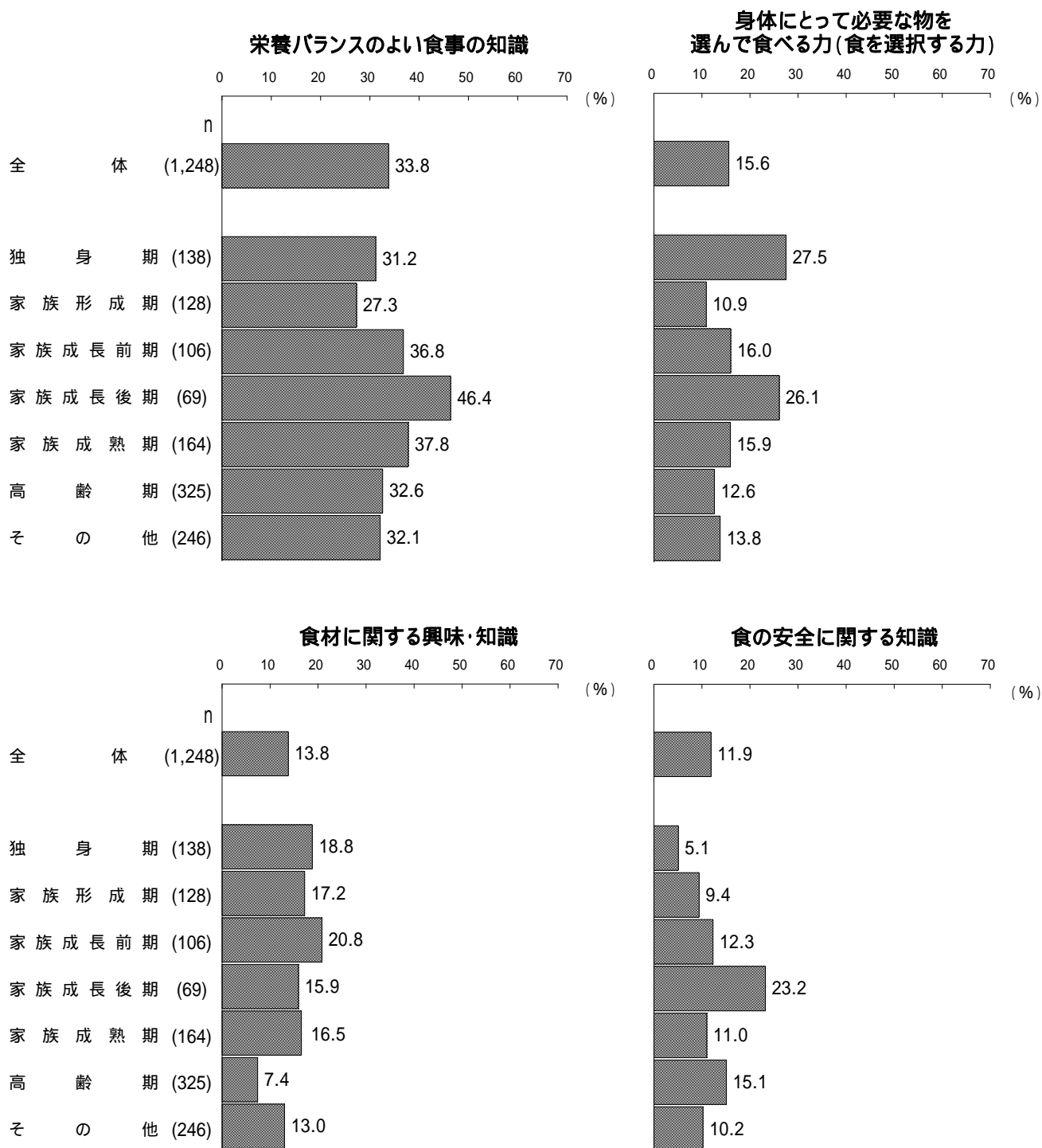


図 2 - 10 - 2 学校給食を通して、子どもたちに身につけてほしいこと（ライフステージ別）

